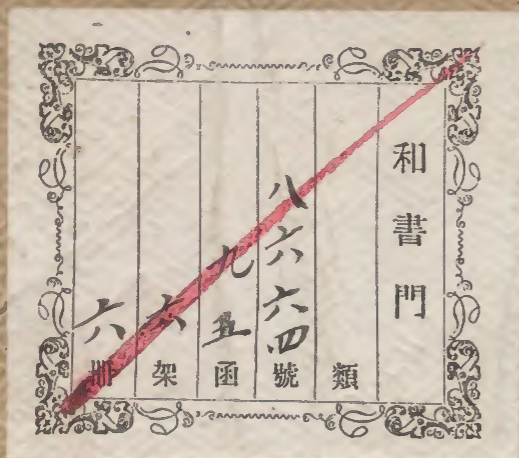
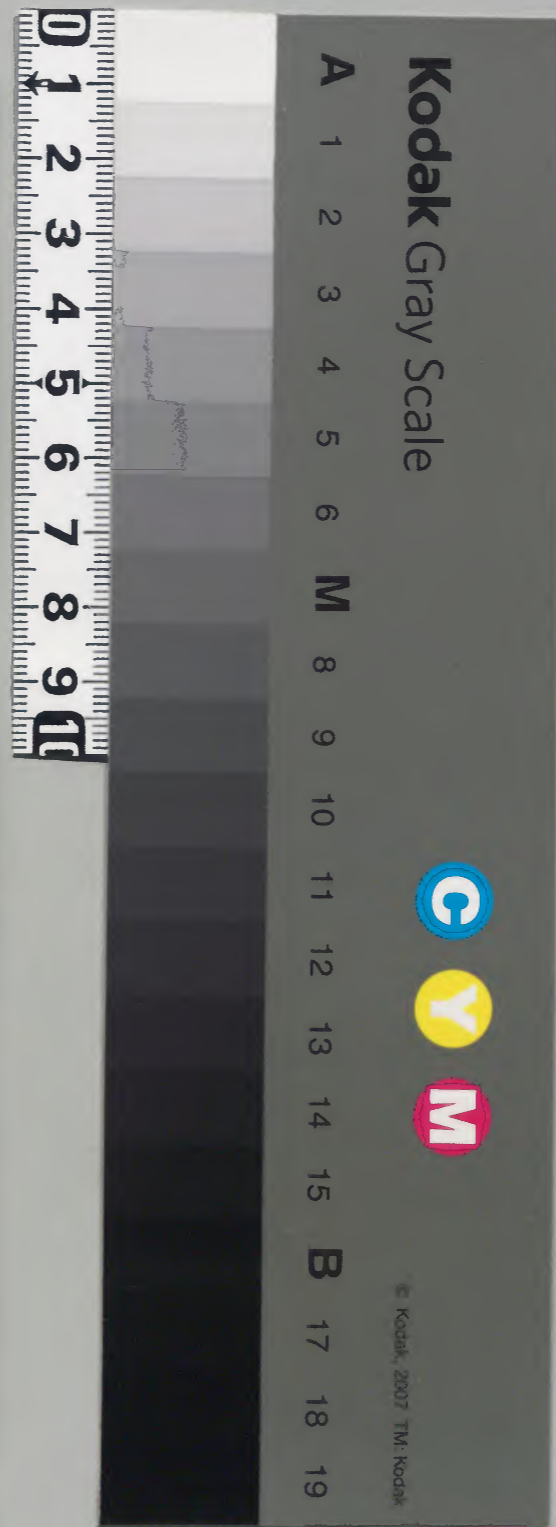


東海道名所圖會

六



内閣文庫	
番號	和 8664
冊數	6 (6)
函號	172 271

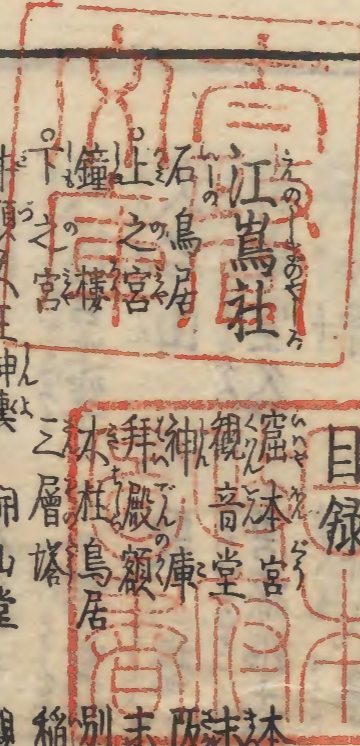


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

東海道名所圖會卷之六

目錄

稲村寄	袂浦	固瀬川	龍口神祠	龍口寺	長者塚	西行願松	七里濱	袖浦	針磨橋	小動	唐原	長者窪	初噉澤	砥上原	行合川	月陰谷
稲村寄	袂浦	固瀬川	龍口神祠	龍口寺	長者塚	西行願松	七里濱	袖浦	針磨橋	小動	唐原	長者窪	初噉澤	砥上原	行合川	月陰谷
稲村寄	袂浦	固瀬川	龍口神祠	龍口寺	長者塚	西行願松	七里濱	袖浦	針磨橋	小動	唐原	長者窪	初噉澤	砥上原	行合川	月陰谷
稲村寄	袂浦	固瀬川	龍口神祠	龍口寺	長者塚	西行願松	七里濱	袖浦	針磨橋	小動	唐原	長者窪	初噉澤	砥上原	行合川	月陰谷
稲村寄	袂浦	固瀬川	龍口神祠	龍口寺	長者塚	西行願松	七里濱	袖浦	針磨橋	小動	唐原	長者窪	初噉澤	砥上原	行合川	月陰谷



何佛尼蹟

極樂寺

本宮

極樂寺切通

鎌倉

鶴岡八幡宮

本宮

武内社

末社

神明宮

瀨川

愛染堂

轉輪殿

影向石

茶師堂

赤橋

多宝塔

持文祠

實朝祠

二王門

十二石居

神田

鳥合原

一石居

法華堂

頼朝卿墓

鳥津忠久墓

頼朝館

鎌倉十橋

畠山重忠第

蛇谷

荏柄天神

覺園寺

大樂寺

鎌倉十井

棟立井

大塔宮土牢

二階堂跡

獅子巖

瑞泉寺

天台山

歌橋

文覺第

大御堂谷

釋迦堂谷

唐絲娘土牢

杉本親善

滑川

浄妙寺

尊氏第

五大堂

建長寺

併殿

開山塔

同願

嵩山

山門額

最明寺跡

明月院

大國見

瓶升

浄智寺

甘露井

圓覺寺

總綱額

白鷺池

方丈

坐禪窟

常樂寺

本曾家

東慶寺

長壽寺

窟不動

泰福寺

鐵井

松源寺地蔵

本堂

善福寺

實朝塔

英勝寺

泉井

山門額

石佛尼塔

源氏山

扇井

綱引地蔵

矢拾地蔵

為相塔

景清牢

海藏寺

底脱井

十六井

巽荒神

假粧坂

正宗宅

運慶宅

裁許橋

人丸塚

尊氏第蹟

典禪寺

天狗堂

佐女稻荷

隱里

綾洗水

常胤宅

佐々目谷

塔辻

盛久頸座
甘繩祠
藤九房盛長家
久能瀬川

光則寺
大佛
御靈祠
常盤里

長谷寺
御靈祠
星月夜舟
實戒寺

北條第
土佐坊第
葛西谷
屏風山

小富士
塔
行
産女塔

妙本寺
比企判官趾
田代觀音
裸地蔵

補陀洛寺
光明寺
六角舟
小壺鷲浦

新居船魔
鎌倉渾村
守殿明神
岩殿觀音

燈擗山
六代河原墓
神嵩
安國寺

御猿畠山
日蓮水
石井
梶原左刀洗水

佐竹第
梶原第
頼燒弥陀
金龍院

朝比奈切通
侍從川
六浦川

飛石
瀬戸明神
瀬戸毎天
獨石

瀬戸橋
照心松
金腰
兼好旧趾

洲寄
稱名寺
本堂
清淨光寺

西湖梅
櫻梅
普賢像
同貞顯塔

能見堂
筆捨松
藤澤
清淨光寺

本堂
觀音堂
持堂
日供堂

訪丈
富士見亭
小糸家墓
當山累世墓

程谷
芝生窟
神奈川
武藏相模國燬

大師河原
五川
一各六郷川
川寄

新田明神祠
五川毎天
八幡家
矢口渡口

本門寺
本堂
祖師堂
大森

宝藏
惣門額
七面祠
題目堂

祖師腰掛松
千束心
荒蘭寄
名産海苔

鈴森八幡
烏石
品川
水月觀音



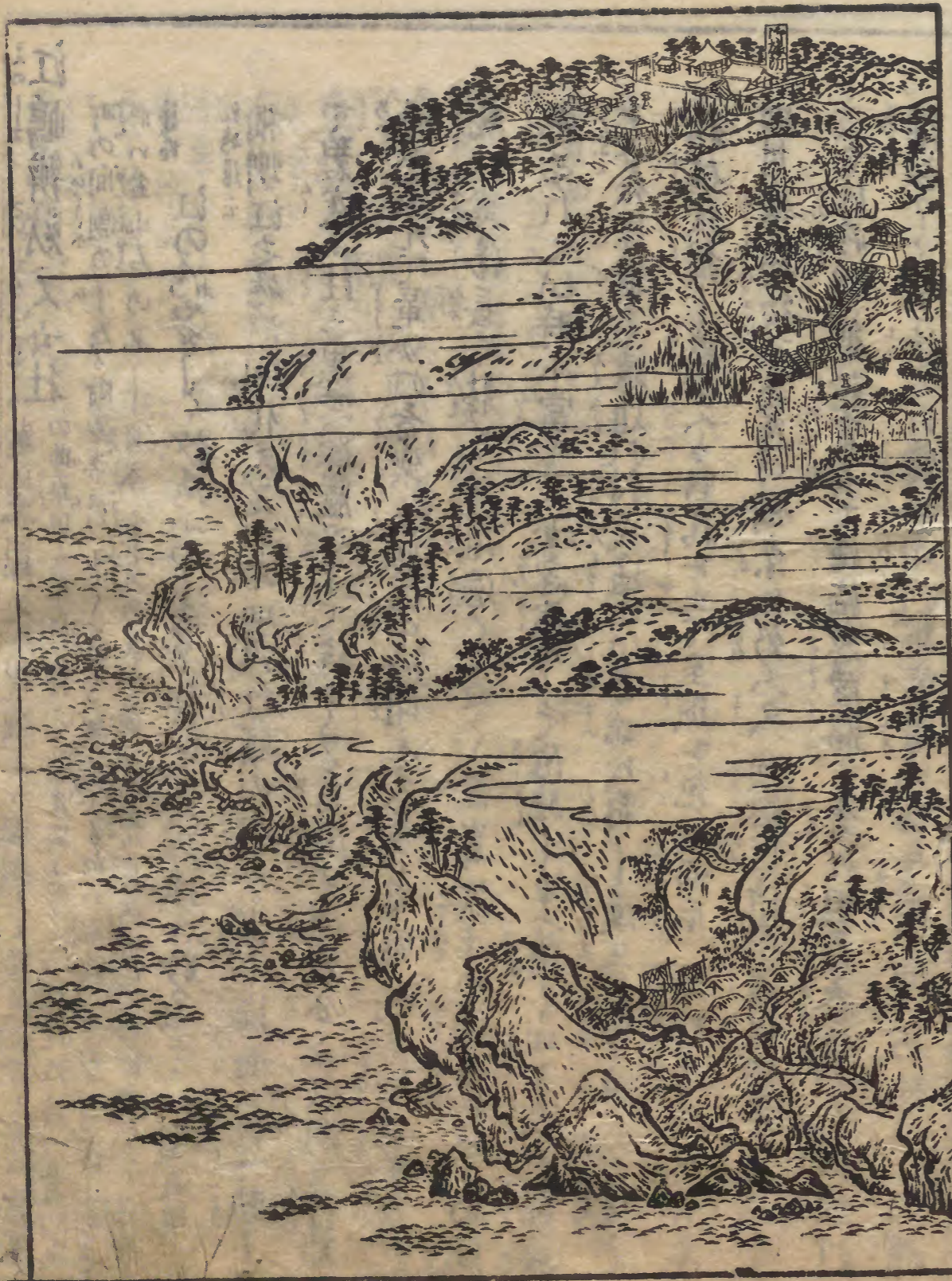
江湾
海濱

山王

海晏寺
芝大佛
真藍観老
雑魚場
増上寺
築地本願寺
東海寺
泉岳寺
西應寺
舎海山
飯倉神明
日本橋

御殿山
芝沖漢船
道權城趾
長南寄
畫肆

八山
三田八幡
熊谷城墟
金杉
愛宕



五
山
景
圖
卷
之
一
第
一
圖

伊
賀



江
之
修
之
天
宮

六
八
四

求聞持堂 本宮の側あり虚空蔵菩薩を奉るといふ求聞持の願あり
日光寺内主光辨は親王の所奉あり

開山堂 弘法大師の安ん
猶あり 天満宮
妙音天竺相殿あり

末社 本宮の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

銅名居 本宮の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

神庫 龍蔵の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

石名居 本宮の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

別當岩本院 本山の額あり
本山の額あり
本山の額あり

上之宮神殿 本山の中程あり
祭神大々財天女神像の慈覺大師の他
少して高宮の文徳帝三年の慈覺大師の造立あり

将殿額 本殿の額あり
本殿の額あり
本殿の額あり

護摩堂 社の西あり
中々愛除明王
左右弥陀地藏と安ん

鏡樓 社の北あり
宝永年中
修の儀あり

上之坊 上之宮の復す真言宗江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

求聞持堂 本宮の側あり虚空蔵菩薩を奉るといふ求聞持の願あり
日光寺内主光辨は親王の所奉あり

開山堂 弘法大師の安ん
猶あり 天満宮
妙音天竺相殿あり

末社 本宮の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

銅名居 本宮の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

神庫 龍蔵の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

石名居 本宮の額あり
本宮の額あり
本宮の額あり

別當岩本院 本山の額あり
本山の額あり
本山の額あり

上之宮神殿 本山の中程あり
祭神大々財天女神像の慈覺大師の他
少して高宮の文徳帝三年の慈覺大師の造立あり

将殿額 本殿の額あり
本殿の額あり
本殿の額あり

護摩堂 社の西あり
中々愛除明王
左右弥陀地藏と安ん

鏡樓 社の北あり
宝永年中
修の儀あり

上之坊 上之宮の復す真言宗江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

○下之宮神殿 山の初あり
社説云正治元年真上人江
江の坊の其一
高坊の傍あり

鐘樓 寛永十四年の造立なり

奉治鐘金龜山與願寺宇賀辨財天女

下宮鐘銘 大日本國東海道相模州江島郡... 出之靈嶋敷福神陀居之巖窟焉... 十代欽明天皇十三壬申歲自四月十二日... 列當干江野南海潮水之水門雲霞暗蔽海上... 日夜大地六種震動天女顯現雲上童子侍立... 左右諸天龍神水火雷電山神鬼魅夜叉羅刹... 浪同及于盤石從海奉砂磔電光耀空火焰交白... 寫山取今之三神山是也抑此神將王者天地... 之起漢湯之初也聞法年奮誰知空王往... 事利生日新何如尊神現德乎本地則等覺妙... 覺之尊大慈大悲之濟渡幾奮迹亦天童天女... 之體與官與福之利益是矣因茲役優婆塞... 詣此山越知泰澄居當鳥傳教常隨給仕安然... 弘法床上對請恒臨慈覺念時常隨給仕安然... 行場應滿知所願以顯密實宗被冥助文武... 商農家家一仰靈驗矣肆信心之檀越等依奉... 治鑄蒲牢一聲上徹梵天頂下警地輪底此土... 耳根利故遍用聲塵三寶證明之諸天衛護之... 總而天長地久御願圓滿別而施主懸志於辨... 天本願任誠於大悲誓約所祈善願令悉地成... 就而己維時寬永十四丁丑曆閏弥生吉祥日

天台傳燈三部都法大阿闍梨法印生順謹書

下宮別當職權大僧都法印長仲誓首敬白

碑石 別石あり座高五尺許巾式七寸厚四寸但一上と雨縁の

内日本國江島靈迹津島山

此の四方雲龍の鑄を古雅凡偏の赤品の碑文の刻缺... 石面ふ石目の霰ありて終ふ十界性人成と所々別れて出ふは... 下之坊 下之宮の護り真言宗妻帯あり

銅鳥居 江島惣ち居なり

住吉祠 山口ふ 荒神祠 小坂の上ふ

荒神石 荒神祠の後山の半ふあり其形蝦蟆ふ似たり

福石 下之宮へある坂の鞍ふあり俗談ふ云は石の側より... 蓮葉池 山中ふありむう一面上人遊泳の時以所河原院併有縁の

一連上人自子の額あり遺書水と書ん

今岩本龍窟へ下り岩下の岩あり相傳ひり建長寺廣徳庵ふ

江流不流は山中ふして美切なり奥州信主の必々の時宿願ありて

わりらんかの伴ふ僕ふ向を鎌倉の相承院に住ゆ白菊といふ見あり

諾するの意ありぬれども見ふはくさひの海に書て求れども更ふ

賜れども酒ふりてさるる月と累く切ふ夢えられを白菊情あり

よあうつれとるる人ありをえせうと云く別れぬ其願ふあり

白菊ふちのむれ里の人さるるさひ入江の流とさるるよ白菊

うに津とさひ入江の流法ふと今い波の下ま

ひふとさるるさひ入江の流法ふと今い波の下ま

ひふとさるるさひ入江の流法ふと今い波の下ま

懸崖

嶮處 捨生 涯十有餘 霜在剎那

花質 紅顏 硤 岩石 娥眉 翠黛 接塵沙

衣襟 只濕 千行 淚 扇 子 空 留 二 首 歌

相對 無言 愁思 切 暮鐘 爲 孰 促 歸 家

白菊の花此情のふと海ふちのさひ入江の流とさるるよ

白菊が流とさるるさひ入江の流法ふと今い波の下ま

えん 見て 倒より 岩あり 波あり 岩あり 波あり

云天 之天とさるるさひ入江の流法ふと今い波の下ま

白龍窟 龍窟より東ふ回る身二首の窟之の白龍つらふ

其證多し 是は志誘ふして

飛泉窟 身入の窟中小窟あり跡の下ふ池あり

十二窟 十二神將の居所と云ふ

仁田拔穴 龍窟の東と云ふ今さるるさひ入江の流とさるるよ

人穴の事 志誘ふして

聖天島 今窟中小良真上人の像が安ん雨降んとする付ハハ

叱枳尼天山 乃のハハふ小山あり

圓可寺 東の山の東に抜小あり真言宗やくも度の青蓮寺の末と

江島名産 真小幽雨寂巽しう樹地と

幅海苔 海雲 比志岐 鮑粉漬 高貴 藤道

花貝 貝やうとさるるの摸振

蔵と江の流のりてさるるさひ入江の流とさるるよ

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒

衆徒



江の橋や
 ちうひ涼し
 ち神かくは
 彼のあゆん
 舞板
 吾橋
 仲北
 富士谷成章



江橋御系
 海東四月初巳日巳刻
 宮本高岩山若此
 神樂を教へて
 奉礼あり

江崎大洲紙云
夫高社の神躰ハ大已貴命也久延彦命と信奉ありて天照太神
尊之其和魂孤犯之富主媛命と號すハ神天降之のひて女財天女
と云ふ事江島ハ神祕といふれと神系圖或ハ和漢字圖會ハ相州江島
神ハ素盞鳥尊の御女倉縞魂神と書とよれ謬之云
秘書 又大縁記云 延唐寺 大日本東海道相模國江島ハ天龍八部所造
辨財天女の靈迹之蓮而靈鳥ハ先記と檢ハハ房藏摸之國の隅多餘倉
與海月郡ハ四十里ハ湖あり深濶とわハ其體ハ水洋々として四山影を
逆ハ摸ハ雲霧像臙々として谷と藏ハ豺狼岳ハ滿ッ人ハ到ハレ
黒凡指と拂ハ白浪者ハ咽ハ故ハ人跡湖邊ハ絶ハ又又五頭の惡龍
あり之國内ハ遍滿して災禍とあり事多ハ一ハ時ハ山崩して洪水
田野ハ流ハ草木ハ損壞して病疫多ハハ起ル 景ハ帝ハ時惡龍
ハハ接ハハ火の雨と降ハ人民ハ死ハ石窟とハ人屋とハ
安康帝御宇ハ圓大宮ハ小苑と云ハ惡逆熾ハ武烈帝ハ御時ハ

金村大宮ハ小苑ハ多ハ乱妨と云ハ一ハ時ハ五頭ハ龍津村の水門ハ初
人ハ子ハ吸ハ於是初吸澤と號ハ時ハ所ハ長者ありて十六人の子ハ持ハ良惡龍
の爲ハ吞ハレハ長者歎ハ悲ハ一ハ屋ハ西ハ里ハ小娘ハ被屍と云ハ小埋ハ
今ハ長者塚と云ハ其後惡竜ハ此ハ村邑ハ少ハ多ハの鬼ハ吟哈ハ故ハ人民
畏ハレハ他ハ不ハ然ハ其所と云ハ死骸と号ハ今ハ腰掛ハ因茲困民相議して鬼
ハ人ハ孤ハ之ハ惡龍の贄ハ供ハと云ハ今ハ龍口と云ハ欽明帝十二年夏
四月江島南海ハ水門ハ小宮ハ雲霧ハ江頭ハ蔽ハ雷電ハ波浪ハ小棲ハ天女ハ表上
小現ハハハ美童ハ左右ハ小供奉ハ一諸天龍神ハ空中より磐石ハ降ハ海
庭よりハハ沙石ハ奉テ海面ハ一ハ兵者ハ死ハ今ハ江島ハ其時ハ十二ハ
來てハ爲ハ小排個ハ故ハ小移來者ともハハ女財天女ハハ寫ハ天降ハハ容貌
微妙ハ一ハ金窟ハ耀々ハ一の五頭ハ龍ハ天女ハ神威ハ小惶ハ屈伏ハ
却テ國家豐饒ハ守護神と成今ハ龍口神祠と云ハハ殿后 文武帝四年
夏四月役行ハ有豆州ハ大岩ハ在テ遙ハ北海ハ眺ハハ晴室ハ紫雲ハ瓊璣と

行者專不動其痛其時瑞雲窟中に記光明空裡照一忽然
中して天女化現一の八臂其尊體中して是女天現の最初喜老七年
表二月抵泰澄江修不到り陀羅尼公誦を亦亦生身と現下ゆ弘仁五
年表二月弘法大師聖跡公修を亦亦東海小邇く相州津村の濱に至り遙
小南海公眺めを聖聖考あり修の頭より彩雲浮んで雲上の金龍公見修
大師敬して船小糸一島不到り金窟小入り政坐する事一七日專真
言陀羅尼公讀満むる夜窟中嚴淨して梵樂聞ゆ天女忽然して
現れ八臂具足の相好公口を大師小一偈公示一て曰

三界是我有衆生亦吾子
此處多諸難唯我能救護

承安二年文覺上人豆洲謫遷は時武將頼朝公小親して義兵公上より老
文覺公江修公来て修財夫小祈願を其後四海治平天下靜謐は日文覺房は龍窟
小泰籠一奥州伊達秀衡調伏公修公日金窟小名居公建らる其外縁
倉武將の尊仰ありひ龍穴を祈雨の事相東鑑ふんころ又武衛の執

權北條四郎時政江修小泰籠一て子孫の繁昌公修公ころ三七日ふありなる
灰緋袴小柳裏に衣着る女房の端嚴美態を忽然して來り時政小
若て曰汝が系生の箱根の法師之六十六部は法華經公書寫して六十六箇箇の
靈地小奉納したり一若根ふりて再び土生る事公得らる然れば子孫永
權と執て榮花小やあるべ一但舉動違ふ所ありは七代とさるる公五言云ころ
不審ありて困々小納一所は靈地と云ふと云捨て帰る公其婆公をいそりも
歳一のり一女房多長二大許の大龍と成て海中小入々々其跡公見らる小大
鱗之牧養を時政所願成就しぬと喜て則かの鱗と取て旗の紋を公押さる
る北條之鱗形は故是之其後毎年の所示現小任て困々の靈地入公修り
奉納は法華經公見さるる小俗稱は時政と法師れ名小換く奉納の筈
此上小法師時政と書たる公我不思議なれとを平記ふもいへり其ころ
星後甲て天文十八年國八州の太守小条氏康江修は神嚴諸社諸堂の
荒蕪と歎とて又金神劍神馬公納らる其後代々將軍家は所家附

數々あり神威のほましく新少く利生の光輝日々熾く挿る社二層
の例糸嚴重たり其中に卯月初巳日殊小賑しく本宮所儀ふ四神
の旗左右小連の神をいそ日の巳の剋龍窟より音樂して渡所初の方六
警蹕の侍士柵の仕丁白幣獅子頭唐櫃はるひ人神饒の神寶と掲ぐを刀
弓玉鍵の神具樂人の左右小烈して音樂と奏し若者鞍と雙調を拍く
磬と乱聲小調社僧七人別西殿三人お小騎とびぎして神樂は渡を駕輿
丁後より錦蓋と掲ぐる海岸幾々する巖上松桓々とて神幸尊く
して又あつらひの儀は波々ま海波と奏し松の風を若菜樂は調ふ此日
江戸よりハの路僅小十三里ありハ男女童のついで老も多しあふ後一
近國近郷の浦々の船と漕つれみるは糸式と稱せんとて群集を内奉
海陸の賑ひ大方ありハ山下れ旅舎あり遠近の旅人と止く饗應を都て
は海に漁家多く朝網夕罾して若ひ必魚は料理て出はるの名物とて
鮮魚の美味多しとす一とに旅舎の店小腰お掛く草鞋履あぐり

二之階三之階お居るもありつる二階小宴とて帰途と忘るもありは海山の
形龜ふ似るごとく金龜山と號し法華竟惠の記は小爰は蓬萊洞といふら
深秘と書れつる實ふ巖高外生高江流れ三毎天俱ふ山水の傍地と
撰んで鎮坐候しまひ奉り八百五十の中やと風色の名所と敬あひて吾堂お
興しやひ御神代御あはれあつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

蘭溪和尚同遊江島歸賦以呈
宋ノ大休佛源禪師

江島 追遊列俊鬘馬蹄獵擁春袍
穿雲分座烹茗香茗策杖徐行踏巨鼈
洞口千尋石壁聳龍門三級浪花高
須知海角天涯外萍水迎帷能幾遺
別當巖本院寶物 弘法大師作
刀八毘沙門金像 同筆
阿弥陀畫像 同筆
江鳥緑超五卷詞書作者不知画士佐筆
北奈氏康古證文
太田道灌軍記圖
馬五壺壺
九穴貝壺壺
二岐竹壺壺
蛇角貳本長一寸



日蓮上人
齋跡

六十三
ハリク



龍口寺

原城

龍口神祠

津村あり系神江大系紙久より例宗九朔九日社務と
寶善院といふ山の半腰ふ岩石あり其形龍の口に似て江口
の方ふ向ふ故ふら龍口山といふ名居り

龍口寺

後越村の内ふあり日蓮宗寂光山と号し
八箇寺の輪番所あり

日蓮上人像

法上人の像祖師遷化の後子六倍
於此合せり高寺建立云

敷革石

本堂の内陣厨子ふあり畫額云文永八年九月十二日日蓮
上人難小遇ふとあり又一名首座石といふあれと龍口の行
難とて毎茶は日宗徒法會

七面洞

本堂の東 番神堂 七面の南ふあり松平飛騨吉利次
の南ふあり

敷革堂

本堂の東向ふあり祖師の像
六老僧の像云

光の松

門内の左ふあり日蓮上人難小遇ふ時松枝ふ先明
は由縁記一非借の

長者塚

龍口山の東ふあり江流記ふ久より長者十六人の子
龍ふ其苦提の考ふ塚築一といふ今ふ家の形あり

長者窪

長者窪の東南ふありむらじ長者が住一趾といふ
今ふ窪あり

初敷隈

長者窪住より水の方十五町許山嶺と繋ぐ谷中ふあり今ふ
跡掃ふ一幽寂の地

固瀬川

後越村といふ氏家よりむらじ川端ゆく大庄
云身京親次集前より所といふ又新田義貞鎌倉攻のとき
斤瀬橋十向坂五十餘ヶ所火とせりを記す

西行願松

斤瀬村へり後越ふありゆり上人ふあり都の方願
松枝と名の方へ振ゆい

唐原

又諸唐原ともいふ斤瀬川の東に東海道節大塚と
平塚のありと唐原といふを記す

家集

名子 宗尊親王 藤原為相 名老 長原忠房 長明

懐中抄

更張日記

たつらめの中あそぶれまわると遠くへ入りたる原
と海ありてさうまゝなるこゝまゝさう白く、あはれとてさうさうはく
錦とてなるなるふねんさだなり

砥上原

行願川の西ふありはふ八ッ松原といふ所なり
源平盛衰記ふらんなり

西行抄

柴松のふもれ志ふふ妻あててさうさうふ小麻鳴あり
西行

陶ちりたさのさふ小駒さえて行願川に志はひとさう
長明

立帰る名残あまふ結ひくんとさうさうふれ葛の冬枯

八ッ松の八ッ代のおけあをれてさうさうふ小龜さうり

被浦

傍熱より江沿へり路の狭きなり
夫本

あまのさう被浦のさうりあまのさうのさうなひさるん
僕人さだ

七里濱

腰越より稲村寄まで道に十二町あり東園の六町まゝ里とあり
七里濱といふ所古戦場なり今ふあわくも刀劍の折る又武具
の錆或は骸骨なり真砂の中よりあまのさうり南方の大津野にてあまのさう
時の浪さう上て裾衣爛れ浪ははく黒い砂あり日映れば光あり黒漆の

西行抄

小動

七里濱の西ふあり巖山
山上ふ八王子洞あり

小動

小動なる山は海に

小のさうこれおもさうぬやもさうちやう

行合川

山の方山谷より流れて七里濱より海へ入り日蓮上人龍口の難い
時多難縁々れを鎌倉へ註進の使と又小倉時頼殿の赦免の使と

け川さうり合川より名とれけ川より島岡まで四十町あり又

稲村寄

七里濱の東ふあり船艦云建久二年九月廿一日頼朝が海濱に遊
遊しけ所あり小笠原の侍負ありしは船が接し原といふ

太平記曰

南の稲村寄まで沙頭路狭き浪さうさう逆浪木は強く引ゆる

奥四五町さうり大船ども波及び櫓さうさうて横矢以射せんと櫓さうり

実さうり陣のさうり引ゆるんも理とて見られぬ我負馬さうり下給

て甲と脱て海上に遙々と依る龍神小回行誓しあひさる傳形日本

開闢は伊勢天照太神の本比波大日尊像ふ隠し世跡は滄海の

龍神小頭一給り吾君其苗裔さうりて逆浪のさうり四海の浪小漂ひさる

義貞今居る道公をいふ者猶と把て故陣小隊む其志傳ふ
王化以資け奉て蒼生安んじあんと仰願の因海外海に龍神
八部に忠義以堅く潮水以萬里の外小退け道公三軍陣小開の
一先のと至信小折念し自佩給る金形を刀以抜て海中投入
ゆひくり真不龍神納受やゆひく其夜の月れ入方小前々より更ふ
干は半もよりなる縮村奇俄に二十餘町干上り平少勝々々横
矢射んて撞ゆる教ふれ兵船も落りゆ小落れて遥の澳小漂へり
縮村奇の海濱神のゆ一故ふ名と云
又出羽ゆとあり奇ゆよりてふれとが川

家集
袖の浦
縮村奇の海濱神のゆ一故ふ名と云
又出羽ゆとあり奇ゆよりてふれとが川

山家
針磨橋
縮村の東ふあり鎌倉十橋の
其一橋あり
極樂寺切通一の西の方あり
月陰谷
昔よりく曆以傳る者候しと云

阿佛尼第蹟
月影谷小あり又廣墓の麓谷英勝寺境内小あり
佛尼の藤原為相卿の母公あり

十六夜日記
東や多位やまあり月影谷と云いなる浦近山と云やうく凡しと
わく山寺に傳ふれのをうふきて浪の音ね凡と云

靈山極樂寺
極樂寺切通小あり真言律宗
南都西大寺の末伽形あり
本尊釋迦佛
尤小奥聖菩薩右小忍性菩薩の像又文殊菩薩と安ん

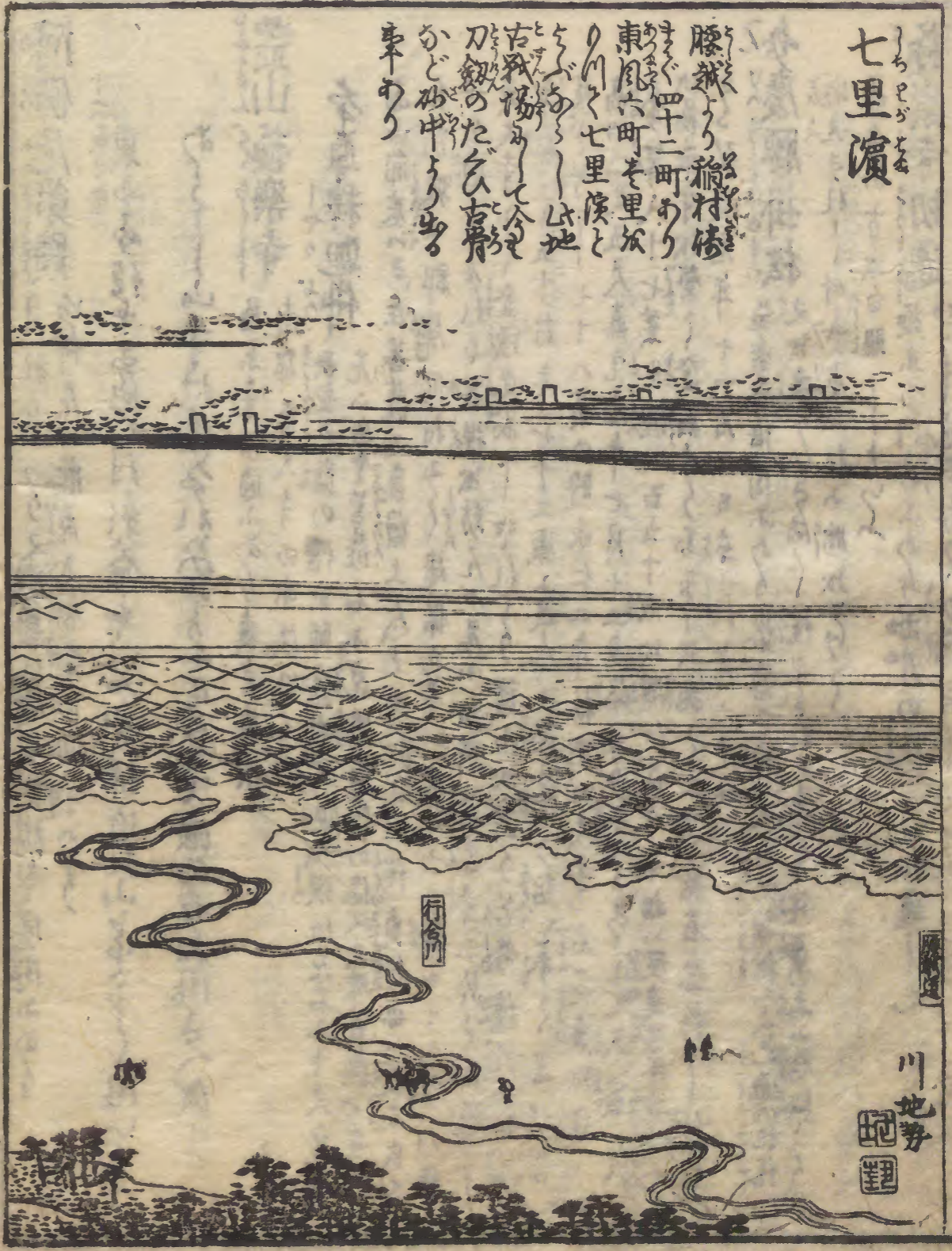
富山御基の忍性菩薩又良觀上人と号ん又の伴貞行母の檀本氏に
和州城下郡勝風村ゆ建保五年七月十六日誕ま十六女の時
母公遊しつれを菩提心訪んが為小和州額安寺小於く利縁し
東大寺ゆ登壇受戒しやれたり諸山ゆり苦修練行を
淨都く五十餘年七十二歳ふ及んご浴せり結と奉り忍性菩
薩と号し七十八歳の時永仁二年持州四天王ち石花表建つ
高サ二丈五尺嘉元元年七月十二日浴より後くまうて入寂
壽算八十七歳生誕二百五十戒を撰れ高寺本願の隆奥ち平重時之
は極樂寺の營く發病より多半に抛く一心小稱名念佛し終る
弘長元年十一月三日卒ん年六十四

每慶腰掛松
極樂寺境内小あり俗傳云源義經頼朝々夜通の死後
文書ゆひさほぐ傳りされんとも流布の爲小腰掛り
返さるれ一時極樂松小腰掛り

極樂寺切通
極樂寺切通の由井の候へ歩切通しと

七里濱

藤原の村
東風六町を里
の川七里候と
古戦場ありて
かどの中より
車あり



古戦場

百發人安在蕭條
逐鹿原陣圖空
臥石運數盡根
鬼哭陰夜燐生
舊雨痕因悲千古
地來者亦難存

皆川洪園





新田義貞鎌倉攻め時
 此舟の軍勢海陸
 充滿〜〜〜
 かく〜〜義貞現と
 めの海上の舟と
 為里の外は退け
 龍神の舟は
 二十餘町に
 高時と亡〜の
 真七里壇の
 外龍の舟と
 同日の輪

伊藤権守馬蹄

いぢりかた
稲邑寄



六十八

鎌倉

相模鎌倉郡... 北の山内... 名所 舊跡 神社 傳利 多一 藝名 後倉 志小 凡一 寺 大畧 畧畧 凡一 萬葉

忘れぬものほむとあり... 大徳寺 八住

日 山小道若海... 貫方

若王 ありあり... 基綱

また 寺... 基綱

日 河海... 宗尊親王

鎌倉記 十と... 宗尊親王

押鎌倉... 宗尊親王

蒙... 宗尊親王

わつ... 宗尊親王

書... 宗尊親王

一... 宗尊親王

又... 宗尊親王

因... 宗尊親王

して... 宗尊親王

大... 宗尊親王

ま... 宗尊親王

上... 宗尊親王

義... 宗尊親王

あ... 宗尊親王

右... 宗尊親王

八... 宗尊親王

接... 宗尊親王

代... 宗尊親王

平... 宗尊親王



琵琶の橋 下名



葛段 居かお一正鶴



由井溪

大倉居



六ノ九二

鶴岡八幡宮

瀬倉中村あり舊名小幡松岡と云ふ宮なり由比の
あふ遷座あり東遷ふらり細北の号なり
八月十五日放生會あり同十六日流籠馬廻摸をどり又二月十一月
初卯日際從あり社領ハ永樂張八百四十貫文と云ふ郡にて鎌倉
一郷ハ古代の風俗ハ一々幾とゆいて寺社領ハ極む
鎌倉

折於老 鶴岡正あさう花松吹風の玉井ふひくあ代の舞 鎌倉右大臣 基氏

家集 家よりやまはる里をた結部ふむ郭公 ち初

△本宮 上之宮 祭神 中央應神天皇 左大仲媛 右 神功皇后 已上社造

武内社 本社のおふあり高良明神 樓門 本社のおふあり額ハ八幡宮寺 竹内良恕法親王のそ左石小

豊饗向戸御饗向戸 田廊 樓門の左右あり東の方 將軍家所行場所 常ハ天下泰平の積経ありそれと座不冷いふ 糸山奉所愛想ふらり論者以給弘安八年三月十七日卯行われ てらり今ふ急慢あり廊のめぐりふい本財天愛徳不動が安一又 七社の神饗ハ出いし人ハ西の方ハ所行あり

○若宮 下之宮 祭神 仁徳天皇 額ハ大推親清蓮院尊純法親王のそ 鎌倉奏せし 所あり

所あり

松ヶ岡稲荷社 本社の西の方丸山といふ所あり初め今社本社の地あり

主社 三修 熱田三輪住吉の四所あり宮の東に祀る又稲童 源太夫

神明宮 上の宮右 石階の下 頼朝祠 本社西の方田廊の外あり

愛染堂 又堂内小地蔵あり 頼朝祠の向ふあり 聖天宮 伝云源頼朝の建

竈殿 頼朝祠の西より 神位所 立といふ毎来正月十三日 頼朝の御霊を奉りて神事あり

影向石 本社の西の方あり 頼朝正應二年二月四日 影向石あり

鶴亀石 影向石の西の方あり 頼朝の御霊を奉りて神事あり

六角井 田廊の外あり 六角堂の内あり

银杏樹 石階の下あり 東鑑云永久元年正月廿七日 將軍

轉輪藏 下及西の方あり 相傳云實朝の末本 一切終末求て建曆

柳原 茶師堂の傍あり 古柳あり 柳原といふ人多くあり

護摩堂 輪藏の傍あり 五大尊あり 運慶の他大藏徳明王の乘

藥師堂 下の宮の東あり 茶師如來十二神將と安ん

多寶塔 東鑑云文治五年三月十二日 塔供養あり

鐘樓 塔の傍あり 塔大サ且三尺五寸厚サ三寸五分

夫當宮者馬臺東成之州 鶴岡甲區之地 模男

山之宗 桃弘 尊廟之 推扉以降 禮神之 周頌祇

之堂焉 禮頌不 儼春 禰之 奠秋 嘗之 儀矣 春秋

幾回 鎮護年尚 答祝日 新然 間去 茲迎 姑洗 不

圖欠 靈祠肆 深仰 玄鑿 忽跂 經始 課般 壘兮 是

尋是 尺用 規矩 兮不 愆不 忘土 木之 勤既 雖及

兩祀 斧斤 之功 殆可 謂不 日傍 斯菩 壩而 復鴻

基先 擊蒲 牢而 發鯨 音乃 作銘 曰

夫當宮者馬臺東成之州 鶴岡甲區之地 模男

山之宗 桃弘 尊廟之 推扉以降 禮神之 周頌祇

之堂焉 禮頌不 儼春 禰之 奠秋 嘗之 儀矣 春秋

幾回 鎮護年尚 答祝日 新然 間去 茲迎 姑洗 不

圖欠 靈祠肆 深仰 玄鑿 忽跂 經始 課般 壘兮 是

尋是 尺用 規矩 兮不 愆不 忘土 木之 勤既 雖及

治鑑甫就 實器鑄陶 龍文製妙
 鳥巧奇標 形非哆吟 聲不飄
 應陰陽律 入宮商調 小大共振
 清濁孔昭 帶霜早和 隨風自搖
 式驚千界 高徹九霄 梵響無斷
 豐三會朝
 正和五年二月日

○實朝祠 奉社の下の下からり柳宮明神と号れ

○二王門 奉社の正面より左右金剛力士安んじ頼小鶴岡山と書れ

○赤橋 奉社より石の及橋はつとサ五間小中三間

○神池 赤橋の左右あり東方の方池中小三つの池あり西方の方池中小四つの池あり初め東西四池あり合く八池之平安家の八池ハ御ト云

○辨財天祠 東方の池中小あり後文の縁々運慶の化膝小琵琶坂勢小相傳小松内大臣重盛の持尊と云

○二鳥居 石柱之及橋のありは石居小松宮少少と云

○段蔓 社より由升後まぐ道の真中高一尺高幅六間許高式天の道あり

○二鳥居 一名石居より云れまぐ
 四町十五尺半あり
 ○二鳥居 五れと大鳥居といふ俱ふ石柱二名石居より云れまぐ六町四十五間南には向と琵琶小路といふあり人の道の形此
 悪の如く故ふ名と云又中琵琶橋といふありは云名石居より
 彼亦際々五町ありははと都て由比候といふ東の飯後
 而々靈山崎に其間
 九五町許あり

○新宮大権現 坊中我覺院の門からり花の方へ入るを所許あり
 奉神後羽院東鑑云寛治元年四月二十五日
 後多羽帝の尊靈を鶴岡の麓の山に麓ふりて云れやりの怨霊
 大樹ふりて一根本根分れく其高サ十餘丈三尺許あり
 老樹に土人云は地ふ文為あり提といふ

○神主館 馬場小塔小居に大伴氏といふ頼朝の書翰代々
 將軍家の文書家家藏といふ又少別當といふあり
 大庭氏と号れ
 同所小居と

○十二院 鶴岡西の方小居に高社の供僧ありといふ人云九五坊あり
 院宣承奉
 惠光院 増福院 海光院 正覺院 我覺院 淨國院
 香象院 莊嚴院 相承院 安樂院 等覺院 最勝院



原此楚
囚京洛人
紅粉舞態
媚於春
新声擬
得想夫戀
能使霸君
感懷頻

熊氏女
臭蘭
古文

法橋中
印
關



於鶴岡若宮
静女飄舞袖

うのふ
みこの
ちの
入あ人の
乃そ
急し
静ゆら

右の十二箇院の中莊嚴院の海山と後踏躰とつゝ山上小山あり見りては西山富士峯東に餘海洋ありて雲ふ連り山亭のやくりや連山峯々うへに右ふの六浦今原小幡死たの建長ち山近く登ゆ亭中少後踏躰の浴と掛の序はつゝ小畧ん

維此天府 雄據有時 盤互疊巒 後踏維奇
礮之斷崖 關之有誰 維清維淨 金僊為師
巖樺澗飲 泉耳療飢 富貴脫蹤 寵辱兩遺
意與體年 樂與道明 維微期人 此焉有斯

昇仙臺記 序畧

殷之鶴岡 霸圖故址 神靈遺威 山川鐘美
節彼一峯 後路之似 昇仙構堂 方丈知止
蒼海雲山 一望一里 逍遙其中 安詳禪意
可以知身 可以養氣 於戲哲人 乃有此社

伊勢州大宝院靈長記

支當社鶴岡八幡宮ハ伊豫守源頼義 詔と奉く陸奥安倍貞任 宗任と征伐ゆんとして清徳の為小康平六年八月山州石清水公鎌倉 由比里小勸修寺にて鶴正と称び今下宮舊蹟と云ふされ永保元年 二月陸奥守義家朝臣修補を殿后治養四年十月十一日頼朝に祖宗

崇んうみ小林郷の山は山開く由比里の鶴正の神殿はあふ縁 けり然れども鶴岡ハ由比の舊跡をれ小林の松岡小遷して鶴岡と称び せれより莊嚴なる宮殿巍々として將軍家時々治一の平東鑑小 又たたり治承の以ハ頼朝義経清中不和小成らせゆひ静のおは鎌倉 小召て義経ハ以傍はるんが為小は鶴正の宮の神前少く歌者あり鼓ハ 工差祐経銅拍子ハ島山重忠あれと仕る回書ハ社公韻一英作の歌 と韻づく静が空幼童なる舞の風俗頼朝に政子も貞小景一列座 の番侯も目公驚はたくりり

志川や志ば様うとてははたの翠ひうと今ふまきうもる 静ハ其以の園色をれを雲鬢花顔表風小芳一一檻と拵づく為 華濃之月と錢く歌扇く一吾ハ東て兼衣き一聲ハ玉と鳴き ぬく簾しく翠塵さびく翔かたをたれ上下ハ感賞大方わは静ハ 丈と暮しの音韻なり恩愛ハ淡くさるる一之頼朝卿ハ清胸少せ

ゆるりゆるりたるりくくはあましく暮も早過ぎに夜とまて帰館
しゆりあれが兼経の思ふを伝はるるありしは時りて四海無事なる平家
の孫黨ありしこふあんで然る報せんといふ又山條梶原もこれ逸者高く
張く嘿々たる倭臣連なる頼朝々治國の計はめらびて平氏の怨は兼経
を人ふ蒙りしゆ倉へ入られ兼経より退きこれいひ思ふを
計畧と我ちこれる當宮社奉の時途中より西の上人公召て三夜小軍
法公解せ根代猫の音燈贈らるる公當社の御事い東鑑も見たれりく
記するをゆるりて本社の後公大江山ものひか大蔵山もい例祭ハ四月
二日八月十五日の事神樂渡り者樂りて石清水お修りり同く十二日
あ流鎗馬のりて毎茶大儀ハ大野本氏姓古より東西名居の馬場ハ
しゆりゆるりゆるり頼朝々上達の跡公今遺り社頭の尖髻
微妙ふし時々將家ハ所修補絶む俗人も夜晴公嫌は間断なし
實ハ圖ハ八洲第一の宮殿巍然する事又我あり

右大將頼朝館址

館址の東端遠橋のゆかり今ハ田圃とて其境地方ハ
許兼倉三代將軍年辰取く四十箇年の向は北ハ

法華堂

所ありしゆり東の門のありしは
頼朝館の小山際ハあり今ハ此の基堂とて相傳頼朝卿
持伴堂といふ下相兼院より取領と

本尊如意輪觀音

由北里の長者藤屋太房大正時忠の持伴より
又弘花地蔵公也

自休藏主像

これハ江之流思が御身と記し自休の像也
幸ハ江之流の下ハ見たり

頼朝卿墓

法華堂の上の
山ハあり

嵩津忠久墓

右同所ハあり墓あり石の五垣石燈燵石花籠石窟の中ハ
石塔あり表曰元祖嶋津豊後守忠久石塔安永八

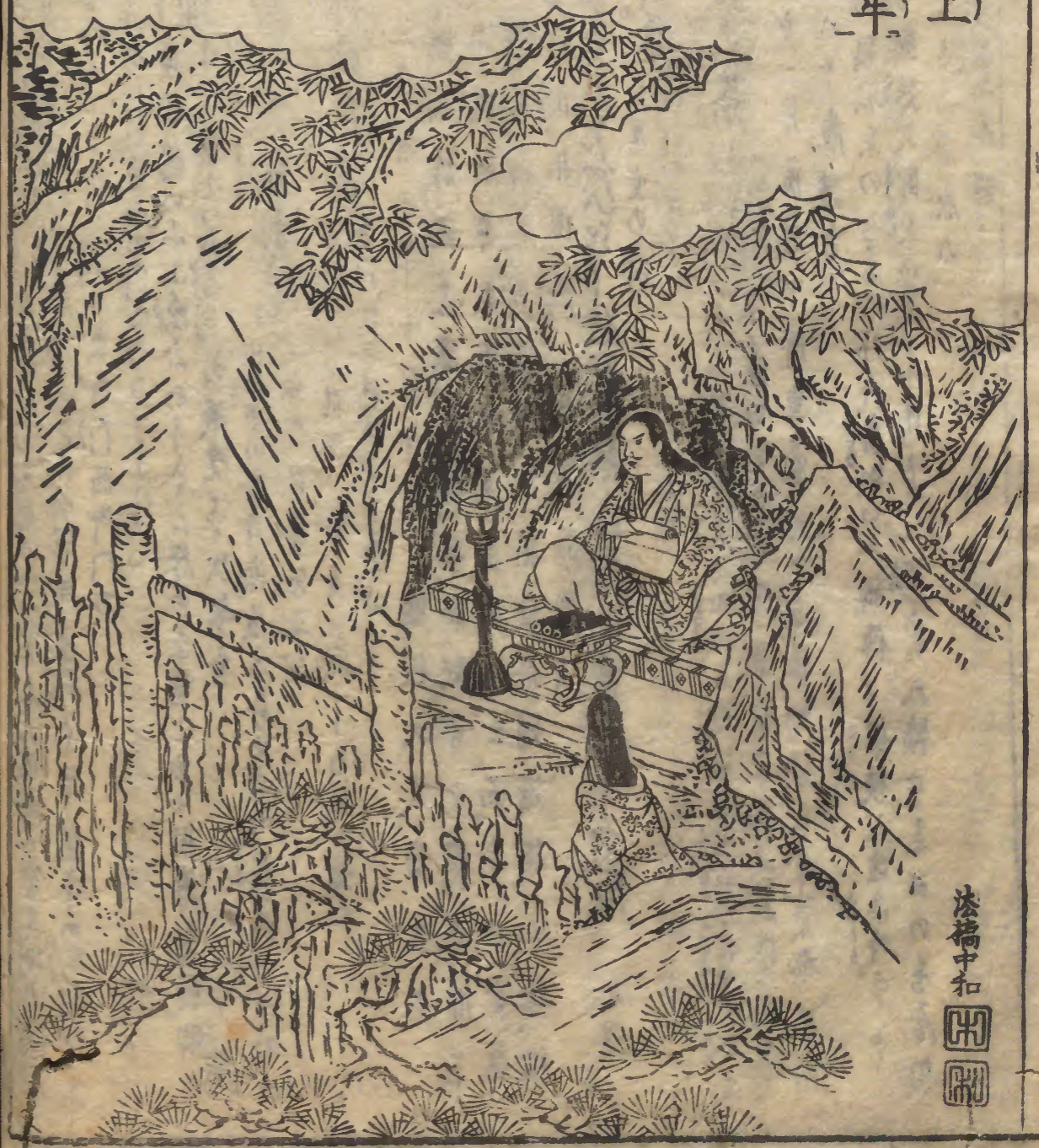
親和八十歳謹書

年巳亥二月 茂庵中將重家建之兼薩州侯之令下東都龍湖

鳥合原

鶴居東の名居の外北畠公ハ相傳ハ相模入道高時より
向入ハ名居原の
名とせざる不詳

護良王
籠土牢



漆橋中和
印

大塔宮二品親王ハ
後醍醐天皇御之宮
みて聰明敏智ニ
由リ東宮小見立
中ノ運乱ノ世ト
あり武家捕れ足利
直義ヲ茲計小見立
二階堂ノ谷ノ土牢小見立
困リ終小淵幸存
一々然リ公ノ
聲漸一々隠ト獄ト
たゞみあらん



篠倉十橋 琵琶橋 筋違橋 歌橋 脇が橋 裁許橋 竹麩橋
建武元年五月二日大塔宮兵部卿護良親王公珍和

島山重忠第 西小川のり

蛇谷 前宮の東にありて人住してつひ入れどもあつたる人住る人の住る宮の

物類 成りたりけりかの地を居てつひ入れどもあつたる人住る人の住る宮の

荏柄天神 大森村の東に道の山側ありて神天満神尊像ありて所後

己あふみの勲信心仕領十九世武百歩の字は願願場とて

今あふみて什家といふ

覺園寺 二階堂村ありて聖聖山と号は宗義四宗兼學
京師泉涌寺の末寺と寺領七貫百歩

本尊薬師佛 日光月光十二神將若小運慶の他志寺南山の願行
上人本願の小桑義時再興の足利將軍尊氏あり

黒地殿 池蔵堂小安の願の大地殿と書は寺流云は地蔵尊地
獄とめらり罪人のくろくをくく自代は火焼れ罪人
の焼とくく黒く煙をくく毎年七月十二日夜諸人皆くく面焼と
彩色をくくくく又一夜小舟のくく黒くあるとて土人火焼地蔵といふ

大樂寺 覺園寺の山側にありて胡桃山と号は律宗南山公珍和

本尊鐵不動 願の上人の他志運慶大土寺の不動と書は時武小
勝とくく史す小武不動といふ傍小運慶の他志愛像

明王願の他の
某所傳孤安ん

縁倉十井 六角井 棟立井 瓶井 取落井 鐵井 泉井
扇井 底脫井 星月井 石井 号は在所次下ありて

棟立井 某師堂谷の山上ありて相傳弘法大師

大塔宮地牢 二階堂村の山側にありて窟中十尊ありて首塚ハハ
二階堂村の山側にありて窟中十尊ありて首塚ハハ
二階堂村の山側にありて窟中十尊ありて首塚ハハ

建武元年五月二日大塔宮兵部卿護良親王公珍和

其の鎌倉へ下り二階堂谷小土籠に塗てせむる足利天下
は保春せん下意されば親王の坊を伊賀守義博小令

上七巻と業師堂谷馳りて宮に刺殺し進らせり下知らせり

は湖を賣て承りらるる建武二年七月廿二日山北内より主従七騎引込

一宮のゆまの籠に所を泰らぬが宮の園のわくを土籠小朝ふ

ありぬともく尚焼と掘り所経遊りては有るが湖を所遊ふ

系うらふ所樂はな小昇居る水沖流して汝ら我を苦しむの使めて我
有らん心得らうと悟られて園遊美人刀を奪んと走りぬらむひらる
園遊持る老刀派取直し沖殿のあつらひを奪と奪ふ宮半本許龍
の中に居屈らむのひれを所足も快きうらむる水沖心ひやたけおるる
覆小舟倒れ紀舉らんとしゆひる水派測る所胃け上ふ素勢の腰刀派
抜て沖頭と捲んぞうれ宮沖頭と編て刀け切先とと呀をゆい測る
ととつめる有れれ刀と奪れすと引合ひる向徳をすけの折て失ふ
う測る其刀と投捨て脇指の刀と抜てす川沖心えれ辺と三刀刺と刺
止て宮うらむ弱らむゆい測る所髪を揃んで引上り遊水沖頭と捲
落れ籠れお走りゆゆい測る所髪と見ゆる小噴切らむる刀け
徳もど所口れ中に留置沖頭を成生るるゆい測る所髪は見てととれ頭
主の見るゆをそ側を裁け中へ投捨て我ゆゆる其所頭け膚も冷は所
眼もゆ塞せ給りえれ氣色おるゆゆい測る所髪は見てととれ頭

宮城ありゆひらり

大塔宮土籠の前の東光寺といふ
禪刹ありはと廢して田園とあり

東光弔大塔兵部卿親王
塔影後こ半入雲王孫曾此洒啼痕
獄中、劍氣衝天起門外、兵塵蔽日昏
義堂

山鳥乍驚龍鳳、質野童那識帝王尊
興亡不上禪僧眼、只見靈光歸獨存

惣て鎌倉の石ゆりゆい測る所髪は見てととれ頭
小窟とゆゆい測る所髪は見てととれ頭
畿内は内圃ゆい測る所髪は見てととれ頭
中ふ多ゆい測る所髪は見てととれ頭
山中小多ゆい測る所髪は見てととれ頭
は鎌倉の窟ゆい測る所髪は見てととれ頭
堀半ゆい測る所髪は見てととれ頭

二階堂 土の籠れゆゆい測る所髪は見てととれ頭
の名あり又字孤山堂光堂とゆい測る所髪は見てととれ頭

獅子巖 二階堂古跡の山の方山峯ふあり
岩の形獅子小似たり

瑞泉寺 土籠の東ふあり錦屏山と号し東十刹の其一は源基氏の建主
少く崩山と愛意園師寺願二十八貫文

本寺釋尊 併殿ふ安に崩山塔少く愛意園師の像を願基氏氏満の
像あり又け塔の後ふ愛意の坐禅窟あり

一覽亭趾 坐禅窟の上方ふあり坂路十八曲編界一覽亭と号し崩山のふあり
おもゆい測る所髪は見てととれ頭

天封尺地許歸休致遠釣渡得自由
到此人眼皮旋阿沙風景我馬度



狩野維殷助永俊圖



青砥叡智
天下才

天台山 一説平の山は山松の山縁倉將軍築より鬼門ふさぐと云

歌橋 在栖天神の東小あり

文覺屋敷 頼朝御趾の南小あり頼朝々小義兵とよる

大御堂谷 文覺を安の東小隣、頼朝々初て建立一々

釋迦堂谷 大御堂の東小隣、小条泰時亡父義時

唐絲掛土牢 則土の牢と云相傳、唐絲掛の塚太房光盛の塚

多り頼朝々小仕へんら本曾義仲へ肉通して頼朝々を殺さん

杉本觀者 金沢道の少あり天台宗大藏山杉本ちと号、辰東巡行

本尊十一面觀者 慈覺大師の他在右、本尊十一面觀者を心

滑川 右の基の他在右、運慶の他

持る後と十舟滑川へ落たりたりと少半れ物なれり

つらつらと以外小周章て其きの町屋へ人を走らして後五十舟との心

續松と十把買ておれ燃へ遂ふ十舟の後と獲り得たり多威人云十

文の後と求んて五十舟續松燃えて燃へたり小利大損哉と笑

たればも砥在唐門眉と揮てさればも我舟違ひあて此の費取も

あつて民は恵む心をさるれ後十舟のみ今求む滑川のある處で

承く失ぬべし其が續松の五十舟のあ人留承くさるるべ我

擲り商人の利之彼と我との差別ある彼此字みは後一と亡ぞ

豈天下れ利非ざると瓜彈としてやれたる難くは笑はる傍の人

く舌は震て感ト多は半北條時頼は上南小達一たれば青砥

召て天下れ政勢はさる後以蒙らる光ぬふ

淨妙寺 杉本寺の東あり、禪宗、謙倉五山、其一、扇山、退耕、和尙

佛殿阿弥陀佛 扇山塔、光明院、扇山の本像、安ん

尊氏第蹟 淨妙寺の東あり、芝生の地、將軍尊氏の蹟、小一と公方屋敷の

五大堂 号あり、後代々、貞東、頼朝の居敷と云



巨福山興國建長禪寺

鶴岡の西小巨福路あり禪宗海家

佛殿濟田地藏尊

應仁の作長き寸分傳云満山寺と建立つる
已前地名地獄谷といふ犯罪の地刑罰
ニテ刀を以て更ふ加れし刀とされハ又折とりハ
佛田畚て我ら小地藏尊を信ト身は故に今も
以てあれハ地蔵尊の信ト身は故に今も
歎異して釋摩田が科と殺に高ち建立の時されと胸中小籠と又
恵心僧都の作りゆ干幹地藏と頭内小舎め丈六の像は佛又堂内小
を常。太元。韋駄天。感應使者。聖徳太子。千の觀者。文殊。

開山塔

佛殿のまふあり達磨像開山大覺禪師の肖像自他乙子
童子の像は童子ハ江島や文とり隨侍のふふされ開山生
涯の向隨身とて桂の杖ありされハ開山宋殿と

嵩山

開山塔外門の額

西來庵 同所中門の額

圓鑑

昭堂の額

舍利樹

昭堂のまの白旗といふ開山葬所の燈は樹小樹れ
累々然とて皆舍利とある故小名といふ半釋書ももさう

嵩山

開山塔のまの
嶽率巔 嵩山の峯

龍王殿

方丈といふ釋迦開山蘭溪
書院 聶松軒
時頼等の像は安ん

蘇碧池

書院在中の
影向松 池の側小あり開山存立の時慈岡
八幡といふ影向

銅碑

序文あり銘あり

皇國萬歲 台算千秋 佛日增輝 法輪常轉

建長興國禪寺

山門の額楠一枚板立九尺横六尺 宋子星の子ハ門下とて七月
十五日施餓鬼會ありありハ終くは施原施餓鬼といふ事あり

巨福山

總門の額筆者不詳一説ハ寧一山又ハ趙子昂といふ巨の子の書中ハ
一點加ハ時の人されと賞美してハ額小點と加ハハ百貫の價あり
といふあれといふ百貫點と稱ん

海東法窟

東方外門の額あり側小
細書一々
崇禎元年十一月日

天下禪林

西方外門の額あり側小
細書一々
崇禎元年十一月日

佛殿梁牌銘

今上皇帝千佛垂手扶持諸天至心擁護長保
南山壽久為北關尊同胡越於一家通車書於
萬國正五位下行相摸守平朝臣時類敬書
右方伏願三品親王征夷大將軍干戈偃息海晏河
清五穀豐登萬民康樂法輪常轉佛日增輝
建長五年癸巳十一月五日住持傳法宋沙門
道隆謹立



圓覺寺



瑞鹿山圓覺禪寺

山之内ふりり鎌倉五山の

寶冠釋迦佛

佛殿ふ安ん賜士梵文帝釋

大光明寶殿

佛殿の額

選佛場

佛殿の西ふりり

方丈

佛殿の東ふりり

舟天窟

佛殿の西ふりり

圓覺興聖禪寺

山門の額

瑞鹿山

總門の額

白鷺池

池の左右ふりり

開山塔

方丈の西ふりり

望禪窟

開山塔の上方ふりり

宿龍池

開山塔の後ふりり

妙光池

方丈の

虎頭岩

妙光池の

洪傳

佛殿の上方ふりり

鐘銘曰

相摸州瑞鹿山圓覺興聖禪寺鐘銘
鶴岡之北富士之東有大圓覺為釋氏宮
賢聖躡象龍範圍天地素籥全功
銀鑲頌銅成大法器啓迪育蒙長
傳法王神天景從祐民贊國植德

什寶佛牙舍利

高山什宝の第一は開山塔正續院小僧

佛牙舍利

傳云將軍實朝公信じて金銀貨財

佛牙舍利

宋國贈佛舍利以宋人其厚信と感賞

佛牙舍利

拾遺山々後宇多帝御宇弘安二年臘月八日

佛牙舍利

創建して開山と宋國の人佛光禪師

佛牙舍利

來朝を傳へて釋書小載りて寺庭の鎌倉

佛牙舍利

少して伽藍珍瓊子院終りて山頭

佛牙舍利

たり殊勝の禪窟にして末師又龍相國

佛牙舍利

刹共不轉住の号今ふたて絶杜南

佛牙舍利

の書たりて

東慶寺

松岡と号し未覺の處に禪宗比丘住職

勢親公の懸女少く、延秀、泰和尚とつゝえね、永年、藤原の時、八歳正保二年二月七日入寂し、ゆへに、御社の石塔、婆りり、高寺の領、百二十貫文、長壽寺、龜谷小あり、寶壽山と号し、因東諸山の第一、源、葛、氏、父、尊、氏、公の、追、福、の、為、小、建、立、正、開、山、ゆ、古、先、和、尚、

本尊釋尊 佛、及、小、安、以、又、尊、氏、公、の、像、あり、御、藍、觀、々、り、

常樂寺 粟、肥、郷、小、あり、初、天、台、宗、南、溪、入、院、後、禪、院、と、あり、寺、を、修、陀、之、寺、と、名、す、

木曾塚 孝、子、の、上、方、小、あり、傳、云、兼、仲、の、嫡、子、信、水、冠、者、義、高、兼、倉、小、あり、

鐵井 作、頸、取、は、井、く、り、堀、出、れ、故、小、名、と、れ、は、作、頸、の、側、の、小、堂、あり、

松源寺地蔵尊 鐵、井、の、所、あり、願、竹、の、豆、加、配、流、の、時、無、運、取、祈、る、

窟不動尊 松、源、寺、の、西、小、あり、は、不、動、尊、石、像、あり、

泰福寺 扇、谷、小、あり、法、會、五、山、の、身、之、之、開、山、の、千、光、國、師、兼、西、之、原、

本尊龍釋迦 唐、の、觀、和、卿、佛、小、あり、筆、小、編、く、張、り、あり、

實朝塔 泰、福、寺、の、傍、小、あり、窟、中、方、一、丈、許、小、あり、社、丹、唐、室、の、彩、繪、多、く、

東光山英勝寺

巖、谷、小、あり、北、に、大、田、道、謙、田、部、之、大、田、氏、英、勝、院、禪、尼、念、佛、道、場、弘、誓、む、其、後、水、戸、中、納、言、頼、房、卿、御、息、女、

難、保、あり、く、再、良、住、願、し、ゆ、は、志、の、大、慶、小、あり、

本尊阿彌陀佛 運、慶、の、佛、件、及、小、安、以、左、右、の、各、導、法、然、の、像、あり、額、あり、

山門額 英、勝、寺、と、書、し、後、水、尾、帝、の、宸、翰、之、裏、書、云、

總門額 東、光、山、と、書、し、裏、書、云、寬、永、二、十、年、四、月、十、一、日、

鐘樓 無、障、金、剛、二、品、親、王、良、愨、書、之、云、

相、陽、鎌、倉、英、勝、寺、鐘、銘、

扇、谷、靈、區、英、勝、精、廬、巧、鑄、法、器、新、服、雜、模、華、樓、

直、架、蒲、牢、高、呼、聲、來、耳、往、外、圓、中、虛、漁、嵐、成、曉、

湘、烟、向、曠、遍、滿、忍、界、透、徹、迷、虛、梵、唄、無、倦、德、音、

不、孤、令、聞、千、歲、日、居、月、諸、寬、永、九、年、五、月、吉、日、

石盤 方、丈、の、小、あり、澤、菴、宗、彭、銘、之、佛、

其、文、花、の、水、

皇	拱	北	今	水	朝	東	前	風	動	今	物	相	從	後	山	靜	兮
人	上	表	一	根	清	兮	諸	根	融	以	漱	石	兮	足	潔	躬	
暮	擁	蓬	兮	其	蒼	兮	梅	雨	連	兮	容	維	兮	江	雲	迷	兮
惟	時	秋	兮	山	象	兮	在	午	宮	石	為	陽	兮	水	湛	中	
棄	化	工	兮	金	拂	兮	雲	盡	空	寒	月	涵	兮	影	坤	兮	
此	流	豐	兮	水	盡	兮	一	得	兮	其	數	充	兮	此	源	深	兮

阿部尼塔

英嶺の北に塔ありは尼公の遺跡の辨論あり其相と共小

源氏山

英嶺の西の山脈に八幡宮あり其家東夷征伐の附あり

泉井

泉谷あり其井あり

網引地蔵

浄光明寺の山中あり昔由比岐より漢又の網引りてより

夫拾地蔵

浄光明寺の境内に恩院あり傳云源直義のちをさす

後原為相塔

網引地蔵の後山あり土人恩世上人の塔といふ

扇井

扇谷あり十井の其一つ

海蔵寺

同所あり本寺は海蔵寺といふ山中あり毎夜見の位尊あり其地と

底脱井

海水汲汲時投擲れおかり

賤の女がいでく桶は底ぬけてあたまを月と成るぞ

十六井

海蔵寺の山中窟の内ありり土人云

景信窄窟

弘法の加持水と云

假粧段

少老松原原太が仮装して送り

鍛冶正宗宅

今小幡橋の町に正宗が鍛冶の屋敷あり

佛師運慶宅

佛師東夷の佛師也

巽荒神

玉泉院の持

人丸姫塚

巽荒神の東畠の中あり人丸姫の墓と云

尊氏第蹟

人丸姫家の南の園に尊氏第あり

典禪寺

善福寺の南あり開山の奥州松尾居禪師本願の朝倉院後寺

裁許橋

政所あり裁許の川あり

佐々稻花洞

佐々谷あり毎年二月初午日鎌倉中群末を馳騁あり

隠里

十ヶ所あり

銭洗水

兼倉五水の其一つ

天狗堂

扇谷と小幡あり

千葉常胤宅 今田圃とあり

佐々目谷 裁許橋の西南にひり

塔辻 七重石塔要依々目谷末の道傍に二所あり古代の跡に塔

小町口等ゆとり土人遺蹟云ひり油井長者傳をたす時忠の子

所ありあれぞ我子の骸ありと菩提の志小落敷り

は塔に接ぎり正慶建武の山家高時亡び一時多くの死の

盛久頭座 塔の西にあり

甘繩洞 依々目谷の西小あり天照方神依々り又八幡をたす

藤九房盛長家 藤九房盛長の家あり

糸巻瀬川 土人稲瀬川と云

真言のまきみは思ひまきりたあまの勢川にたみり

東海をたす勢川にたみりたあまの勢川にたみり

たあまの勢川にたみりたあまの勢川にたみり

さへはるあまの勢川のたみりたあまの勢川にたみり

ま酒ふ波の志何たもたあまの勢川のたみり

あまの勢川のたみりたあまの勢川のたみり

光則寺 大佛入り道の左ふりり小京時類の長庵屋光則八道居士の

土の籠小入申の時子日朗日心檀那四糸金吉父子日人光則小

光則これより信に起り宅地日朗小家浦山山と云故父の名

山辨行時山と云名取寺号と云日蓮上人日朗光則四糸

大佛 初瀬村依々り大威山法浄泉寺と云浄土宗光則寺此

赤い堂早より又及意覆もり長三丈八尺八寸八分

腰内小六親名り依々り三尊併依々り未信人板内小八

寺信云初い重武帝の建立ありて高圓少く圓分寺の

大佛建立の事あり其時長八丈の依々り依々り依々り

應安二年九月三日大風徳倉大佛殿顛倒と云又明暦四年八月

十五日洪水由比依々り大佛堂破と云云依々り依々り

代小たびり建長寺の祀小大佛堂の崩山大素和尚と云り

中興ありんれ

御樂嶽 大伴の東に
山とつゝ

萬葉 御樂嶽 山とつゝ
御樂嶽 山とつゝ

都也とてや吹ぬらん後倉やみあし寄れ秋の初風
宗尊親王

常盤里 大伴の切通しに依りて常盤とて東に建長八年八月廿二日
將軍家新奥州政村が常盤里へ入るにせり

長谷寺 長谷村のあり海光山と号し浄土宗光明寺の末流
坂東巡礼所第四

本尊十一面観音 長谷寺にあり十一面観音の像あり
堂内小如意輪像勢至像聖徳太子像和明長谷崩山徳道上人像等あり

御霊社 八田知家所住のあり具外往かふらん一掃則大坂小所霊社あり
八田知家所住のあり具外往かふらん一掃則大坂小所霊社あり

星月夜 極楽寺城下より坂の下右の方あり里談云むりハ井中
星月夜 極楽寺城下より坂の下右の方あり里談云むりハ井中

寶戒寺 廂山五代園師
寶戒寺 廂山五代園師

本尊地藏尊 座像長三尺五寸左右梵天帝釈又尊氏の持子治承四年
本尊地藏尊 座像長三尺五寸左右梵天帝釈又尊氏の持子治承四年

徳宗推現 寺内小あり小泉高時の
徳宗推現 寺内小あり小泉高時の

北條屋敷 高時を同館とて久しかり故小泉宗時とて
北條屋敷 高時を同館とて久しかり故小泉宗時とて

土佐房茅趾 茅趾の境内あり
土佐房茅趾 茅趾の境内あり

葛西谷

手記

葛西谷 葛西谷の南の谷に地ふじり一軒あり小泉家代々の墳墓に築く島時其外一門ありて今も骸骨の跡あり相模入道も東勝寺に於て後切りの城入道は腹を切たりと云われ公足堂上小庵然して一門他家に名をせり多膚と推肌脱々て腹切もりの自頭公控落も多し思ひくは最期は体特小由々後焚きたり 中野 惣其口業する人百八十三人我光と復切て屋形小火公焚されバ猛火熾ん小燃上り黒煙天と捲く屋上小並居する兵共是公見て或は自復撥切炎の中へ飛入るもの或は及子足骨を返して重し跡もりの血を流く大地小溢れ湯をさして燃りのゆかれば公は路小横て累々たる郊原のゆか死骸焼く足ゆかとも後小名公名をいふ所を死せる者惣く八百七十餘人以外小業恩顧の者僧俗男女公云は傳言傳て泉下小恩公報き人等小悲公促き者遠國公等へて志くは鎌倉中公考も小都て小公餘人の鳴此日ゆある日と云元弘三年五月廿日と申小平家九代公繁昌一時小滅亡して源氏多年は執權一朝小聞分半公得たり

屏風山

屏風山 實戒寺の東小ありり屏風山なる

小富士

小富士 屏風山の傍北家公ゆふ小社のありり神射小富士形の石公居虎間大菩薩と傳を毎年六月朔日群衆

塔

塔 實戒寺の南にありり寺説云日親上人は此少く十塔の九と故

行池

行池 小町の西側妙隆寺小ありり寺説云日親上人は此少く十塔の九と故

産女塔

産女塔 同所大巧寺小ありり日棟上人の産女の出産小遇ふ希は華の題

妙本寺

妙本寺 比企谷小ありり日蓮宗池上本自寺の忌帯所へ南基日謝二人

本尊釋迦佛

本尊釋迦佛 日蓮上人豆洲左遷の時立像の釋迦公は身も後小日親小

比企判官古趾

比企判官古趾 比企谷小ありり比企判官は負比女のお徳局公將軍頼家

田代觀音

田代觀音 妙本寺の東南小ありり田代冠者信綱の旧跡

裸地藏

裸地藏 栄町の西小ありり延命ちとつ小本寺地蔵の裸地藏小く女振り

補陀洛寺

補陀洛寺 林本寺の東小ありり直言宗南向山とつ小崩山は文覺上人又頼朝の像

本尊茶師佛

本尊茶師佛 文覺の勸進帳の切りの首尾破れし一紙ありし土人云

近年文明三年八月龍歩くち破ら故小龍巻寺とつへ



光明寺



天照山光明寺

徳西六派の内白旗流義あり

本堂記主禪師

上人の才子初良忠然上人と号し石州の人

弘安十一年七月六日寂し享年八十九記主禪師と号す

阿弥陀堂

本堂の花より本尊阿弥陀佛の運慶の作

祈禱堂

右の方小善導大師の御影あり

方丈

本堂の少より運慶の作

開山塔

本堂の北より記主禪師の

天照山

山頂の麓より

記主水

山頂の麓より

藏王窟

山頂の麓より

山門

額に天照山後花園帝の宸筆あり

菩提塚

山門の外

小糸家墓

山門の横あり

それより初依依谷小より後母より小後を本願の宗次州大守平経時建

立蓮美寺と號し良忠上人の開山と以後小経時並受より光明寺

と改む良忠は才子六人あり六派と流

本寺より白旗流義の流名を聲絶せし松の風靜小香煙梅

六角井

其夫十八里

小壺

新居

...

...

...

...

...

...

...

...

藤倉渾村

林檎の木の皮に
民衆を業とす

水江之浦 鳥見之堅 奥釣鯛釣於七日

後金の海 川の月と 奥の彼と 奥の此と 奥の彼と 奥の此と

海とて捨つ 物とて申せ 奥の物も 奥の末も 奥の上も 奥の下も

へん 川とて 奥の物も 奥の末も 奥の上も 奥の下も

目 申せ 奥の物も 奥の末も 奥の上も 奥の下も

守殿明神 飛混柏 頼朝腰掛松

燈摺山 六代所 御猿畠山

神嵩 岩殿観音

日蓮水

石井

安國寺

佐竹屋敷

扇と佐竹 小賜と 扇の 故と

梶原第

五大堂の山深し梶原系時が宅地也

頼焼弥陀

信馬の道のおふりり蒲基一過上人藏獨山を賜すと云

本寺阿蘇花解の縁起云々... 頼焼弥陀の縁起云々... 頼焼弥陀の縁起云々... 頼焼弥陀の縁起云々... 頼焼弥陀の縁起云々...

梶原太刀洗水

朝比奈切通... 梶原太刀洗水の縁起云々...

朝比奈切通

朝比奈切通の縁起云々... 朝比奈切通の縁起云々...

侍従川

侍従川の縁起云々... 侍従川の縁起云々...

六浦川

六浦川の縁起云々... 六浦川の縁起云々...

金龍院

金龍院の縁起云々... 金龍院の縁起云々...

飛石

飛石の縁起云々... 飛石の縁起云々...

瀬戸明神

瀬戸明神の縁起云々... 瀬戸明神の縁起云々...

祭神大山積令

祭神大山積令の縁起云々... 祭神大山積令の縁起云々...

瀬戸辨天

瀬戸辨天の縁起云々... 瀬戸辨天の縁起云々...

福石

福石の縁起云々... 福石の縁起云々...

瀬戸橋

瀬戸橋の縁起云々... 瀬戸橋の縁起云々...

照手松

照手松の縁起云々... 照手松の縁起云々...

金澤

金澤の縁起云々... 金澤の縁起云々...

兼好齋蹟

兼好齋蹟の縁起云々... 兼好齋蹟の縁起云々...

洲寄

洲寄の縁起云々... 洲寄の縁起云々...

洲寄

洲寄の縁起云々... 洲寄の縁起云々...

洲寄

洲寄の縁起云々... 洲寄の縁起云々...

洲寄

洲寄の縁起云々... 洲寄の縁起云々...

金澤山彌名寺

金沢小なり真言宗西大寺の末派也
坊舎五宇

本堂彌勤佛

運慶の作

愛深堂

本堂の西

弁財天祠

本堂の西蓮池の側あり

経樓

後余志ふんれを畧す

金澤支庫古蹟

北條敏俊守平親時より支庫に置けり
書院藏先儒書ゆへ黒印佛書少く未印印其下ハ格書少く
支庫の四文字字堅小書其後上校安房守憲實執事の時再興ふ
強余大茶依云武洲金澤の學校ハ小条九代の繁昌の時學向あり
所ハ又上州足利の學校ハ景公六年小条管上野の關司たり
一時の建立今安房守憲實足利ハ公方家の地を以て學
寮に建て領地と併し諸書院藏り學徒に隣慈と云れを以て頃
諸國大亂れと學道も絶たり

日守一所の學校と云西國北國より多く後云云
管領成氏の時其後又久頼廢り書籍とみる
散失支庫も只名の残れり系師の大學寮寮と比せんや
觀金澤藏書而作

王帳修文講武餘遺

來り覽舊藏書

義堂

牙籤映日窺蜩斗

鏢快乗晴走蠹與

圮上一編看不足

對侯三万欲何如

照心古教君

家有收在胸中歷五車

青桑楓

堂前の木あり西相に後倉あり

西湖梅

今ハ裁今ハ枯

櫻梅

今ハ枯

普賢象榻

寺内あり

美石

其ハ蓮池の傍あり

所所各

名山帝より小慈庵

北條顯時塔

日所あり

抑あちい

金澤に古刹ありて名高

関基の審海

和尚本願の小条城

附々伽藍魏々

たり年葉累りて令辰支庫も頼廢

封一

只寂寞しる古名刹あり

只寂寞

しる古名刹あり

只寂寞

しる古名刹あり

只寂寞

しる古名刹あり

只寂寞

しる古名刹あり

只寂寞

しる古名刹あり



肥見堂

樹蔭社の西ふりり 藤野山麓院と号し一寺を地蔵寺云

捨茅松

堂ありあり茂云云 巨勢金剛の地ありてその風系

あつた松の下少て茅松 妙あり松ありあつて見ゆ 見堂の名なり又土人云令岡さく

ま此堂上へ毛てく遠をまれば東南少安房上總れ岩々眼下小

遮り近く見れば瀬戸側寄の八江塔を海人深外後女瀬戸

橋のり人橋と烏帽子鳥猿橋渡渡浦と六浦三浦葛浦

浦江社と瀬戸明神あり祠あり子祠寺と稱名寺太宰寺若雄寺

薬王寺龍善寺亦通令竜院松と照天松村君若まま塚松若

亀井深井白井赤井夫井取小井取の七井亭と四を亭九覽

亭は二亭あり里と金利屋刀切洲寄村町屋村六浦村瀬戸村

谷村室本村登海村采寄村引越村乙臘村大同村少と後金山小嶽て

遠近れ連山綿々たり安房上總ののり岩嶽三浦は二子山名ふ

とふり唐もさくの象ふひと海にれ 婦トは高根もは濃刃の手松松の

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

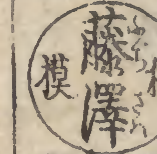
あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて

あつたつらやあつたつら海に堅奥る鏡念の海ふはるは波瀾湧るにて



東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

上件の後念金山と東海道の通に備へ二里餘に已下へ又えの

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神

東海道の五里三町之駅中白旗明神とては神の生土神



藤澤浄光寺



藤澤山無量光院法浄光寺

本尊阿彌陀佛 唐長日人許恭覺大師の作賜檀開祖一遍上人縁

觀音堂 本堂の法相なり正觀音の法相なり本堂の法相なり

常行堂 本堂の右ふりり光岳院と云ふ酒井長門守常行念佛の御願

日供堂 本堂の側ふりり諸檀那日供月供の位牌の御願

方丈 日供堂の側ふりり富士見亭 法音と書けり

三門額 藤澤山と書けり勅額從二位左大臣原基時卿の御願

北條家墓 當山累世墓 開基遊坊上人より五十三歳まで

南部右馬頭茂時墓 同所より教澤も應心大居士正慶二年五月廿二日御願其外諸檀の御墓多し

子院 真休院 拙徳院 真光院 若徳院 貞和院 光岳院 長生院

本宗祖一遍上人と原俗姓伊豫國領主の聖七房道慶代二男と名沢松壽丸と云切なり聰明敏悟なりて菩提尊信なり後休院浄宇建長五

子同國天宗継宗寺縁教律師と師よりて出家受戒一隨縁坊と號けり

厥后 龜山院文永元年此時 浄土宗聖達上人の隨心名公智真と改む

易の念佛門入 兼宗大宰府弘西寺の住持とあり 九十年代 後宇多院

建治元年於十二月下旬より紀の熊野山本宮證誠殿小百日叅養念佛

安心の正路を祈願し後小聖建治二年三月廿五日大権現示現の願曰

此文公得悟の時より名公一遍上人と改むし神勅小任て南無阿彌陀佛

札と國中庶民小賊無以十八年此間回國修りゆひ九十二代 後伏見院浄宇

正應二年八月廿二日攝州兵庫津小放り遷化あり 年五十五今真光寺と云ふ墓

當山の開基と云ふ四代吞海上人と奉願し候好く房景平 起立の資賜あり

てあち次第創を吞海上人嘉慶二年二月十八日當山より入寂あり 年三十三代

寺職尊親は親王の 龜山院の御願なり 後醍醐天皇延元元年和州吉野

山へ皇居を遷し南朝二代 後村上帝春宮されりての御願なり

備君と云れ南朝三代の御位より知れり其願官方微なり吉野十八



浦生踊魚



小栗小次郎
 権現堂にて薄曇
 雲の隙に毒酒を
 殺さるるを救ふ
 竹林の馬小
 走るの道場
 馳入る危き路を
 逃れり
 馬上の達人
 御王の
 御殿に
 惜みの
 あは





穴の
 眞子の
 宮
 此れ日本の
 花源
 あり

江戸
 蕙斎政美



神奈川
 新芝生
 浅間
 神祠
 穴の
 あり

江戸
 五十一
 八

相模

程谷中にて武里九町後念葉花の時に材木町といふ嶽より海道條大畧
南小川の方より江戸小畠なる中川の町端れ小若田橋といふ
武蔵 江の邊後念道と鶴岡へ武里長谷郷といふ武里半

武蔵相模の國燭

此本村といふ方小

程谷

神奈川中にて武里九町むらゝの程谷新町帷子さく
三層あり一級慶長二年一殿とありふれり
金沢後倉へは通筋右の方小あり金沢後見堂

芝生村窟

芝生村の方小は向河より山腹小窟あり
土人祀てふ所の人たといふ

御奈川

又賦の小端小浦考ちといふなり本寺正觀寺浦考ち守伴といふ
長法寺八分古の真言宗今浄土宗とあり寺競云むう浦考ち
子龍宮といふ時親の靈魂依りて東の方へ
箱根山あり玉の箱とあり老翁とあり
西蓮寺といふ又竜燈籠といふなり

川寄

武川中にて二里半あり南北町許小遠原村といふなり
堂内小入と通長と

**大師河原
平向寺**



海濱漢歌處生
江長万里與天平
波向一望十帆影
半入春風蘆岸清
大師河原
釋隆圓

春泉寫

法藏園多摩
 郡玉川の具
 一ツみく万葉
 見も古流あり
 今六郷村の
 中ぬれ俗小
 六郷川と入
 又の上入向里
 一七入向川
 とも入く

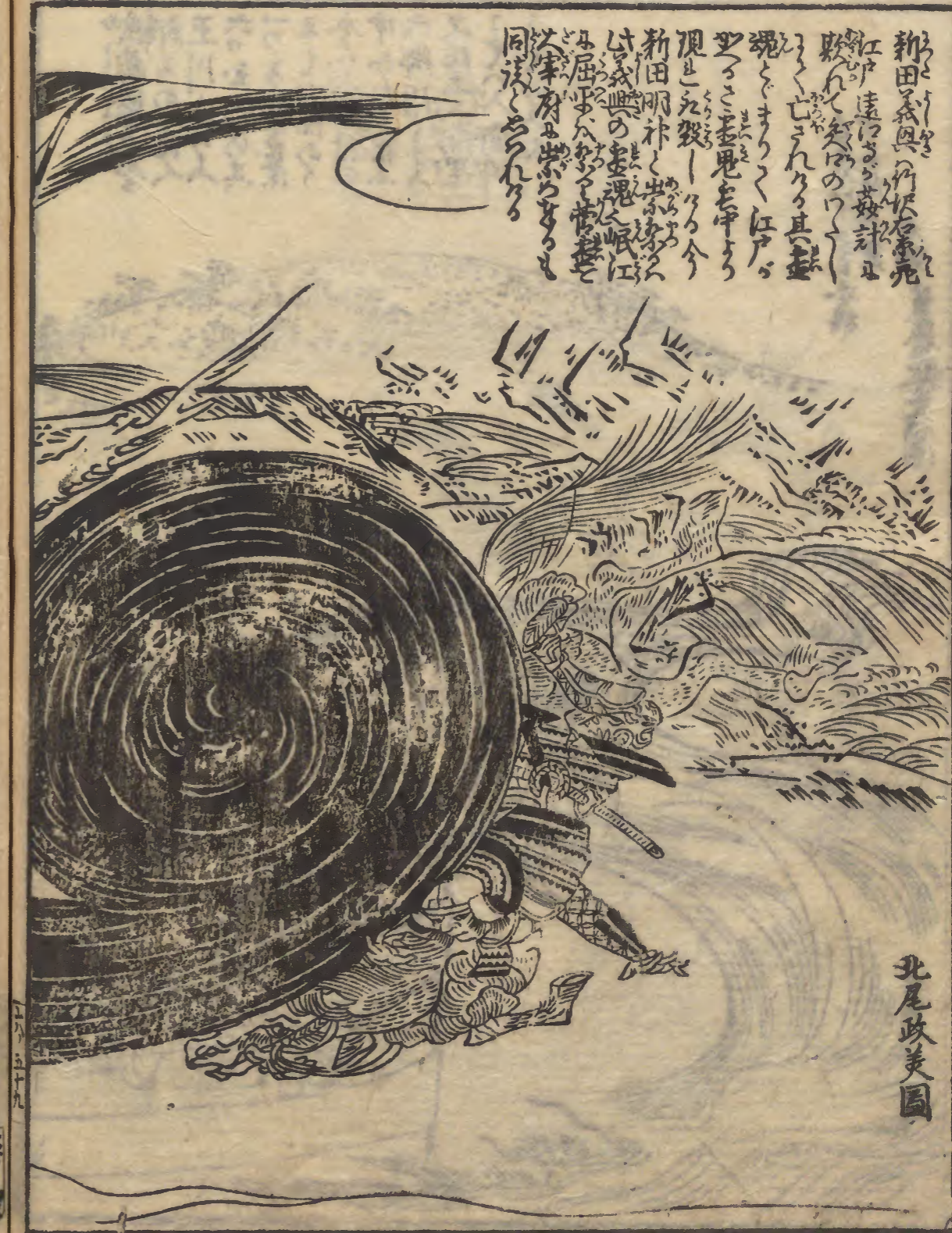
自是以下至日本橋
 十三紙同筆

東邦 畫師補政美



拾遺志
 玉川小
 さす村
 ちりくす
 ひうれ人の
 意しきや
 懐人きん





北尾政美圖

大師河原平間寺

武州櫛橋郡川寄郷大所河原村小あり真言宗新義

本尊弘法大師像

長五寸堂内小愛深明王不動尊弘法大師像

近年新小隆と傳て堂ふふかく
高木の老像の厄除大師といふ寺説ふ云むり大治年中は浦小平間
氏といふ漢文有り生國は尾州の南少くは年久しくは浦小生實正
直小しては漢文三寶尊といふとも家窮く貧しくは漢文生實業
著しく云はれむり年四十二支の時々の高僧來りて平間
小流止海べり海上一投年久しくは海に沈み
て今幸ふい浦小なるはこれと漢してこそ小安世は厄除除威
永く富貴の身とあり其海上の志りては平間大感嘆し
これと標し漢文ありそふ大師のま像は得りて忽然と号し
方の氏俗ありそふ大師のま像は得りて忽然と号し
村の名と大師のまといふ高院小三點の秘封といふあり
まれと真言秘寶と稱し大師の相傳は
玉川 六郷川の右名之入り摩も武蔵の郡名之玉川
の真一川といふ古語あり又入間里少くは入間川といひ海道條
少くは六郷里あり六郷川といひむり大橋あり武蔵國三
大橋の其一といふは九向のりといふは水小度々損るゆ
に塚年中より船はありとあり又いひはり水道は他河
樋なとせは戸系捨りおのり水の用取と
矢口渡口 六郷のり上あり矢口村の農作のり又戸のりといふ
もあり又矢口の上小は橋原玉川里之吉也といふあり

新田明神祠

矢口村小あり六郷のり十段町并西の方之新田明神祠

別高弘興福寺といふ真言宗あり
新田在中將義貞の三男小左衛門義興中て器量為常勝れ智
勇武畧の各將のり又義貞死の後も義興の合衆のり
垂勢ありて勝利あり上野國小藝居一時々武藏國小熱て相州
鎌倉公親ありて安へられの鎌倉公親領足利基氏つるもて討む
討つとも曾て居不決定む基氏をてり小竹は右末亮公親
竹と討むとありてそれより竹は鎌倉公親をたすり

て義興の同意はそれとも義興と竹は心を公親に心竹は
謀公のり京都よりおのりおのり息女十七ふせめて容顏美
ある公中下り義興のり義興の好意おのりひかれ借老同
穴の髪とゆい竹はとを二乃味方とをひひ文運のほろとあり
斯竹は公親小方便とめら計りておのり人といひひ

延元元年十月十日矢口の渡り舟に船をさうりて鑿とす一必至て義興
一族十三人密に渡り時鑿にぬき船を沈めたり具一ゆい一井弾心
義興が宙より上をれが義興大者聲を日奉一の不道者お竹止ぬる
口惜さうと牙を噛自害して石のあ屑と成りたり江戸竹は若お恩
賞ふれり其後江戸遠はも本國に帰らしては矢口の渡り舟に到り義
興の怨毒をりられし居候所の射と見下り山に震動一黒雲
一村江戸の首の上を落るとかへ一江戸の馬をり逆ふ落るとるまより
重傷をうけあふ落るとまのうて終におひ先を死ぶる是のころは入
向川の車家二百餘年一時小妖燼と成り義興の封札一矢口の渡り舟
々をわびくゆき人々を悩一る向近隣の村老翁りて義興の亡魂一
社の神お祟りは新田大明神としてやまのうらこのお禮今ふとえ
びとぞうけぬりるう一に成り一幸なるあり

玉川辨天宮

八幡塚村ふりりは所の生土神といはれ海中の神といふゆゑ
舟より玉川に渡り別當宝珠院

八幡宮

舟より玉川に渡り別當宝珠院

大森

村の名といはれ所にお中散の業店ありひりまを細工の

長栄山本門寺

在る郡千束郷池上村あり日蓮宗

本尊釋迦佛

運慶の他 祖師堂 祖師日蓮上人の像安んずる

高祖日蓮上人の開基之往昔上人房州小湊よりあふ来り番匠

宇佐美尉宗仲が家より法善経に脱て宗意弘通一りり時より

遠く登り宣ふ必死ふは生利無化縁満より弘安元年十月十三日遷化

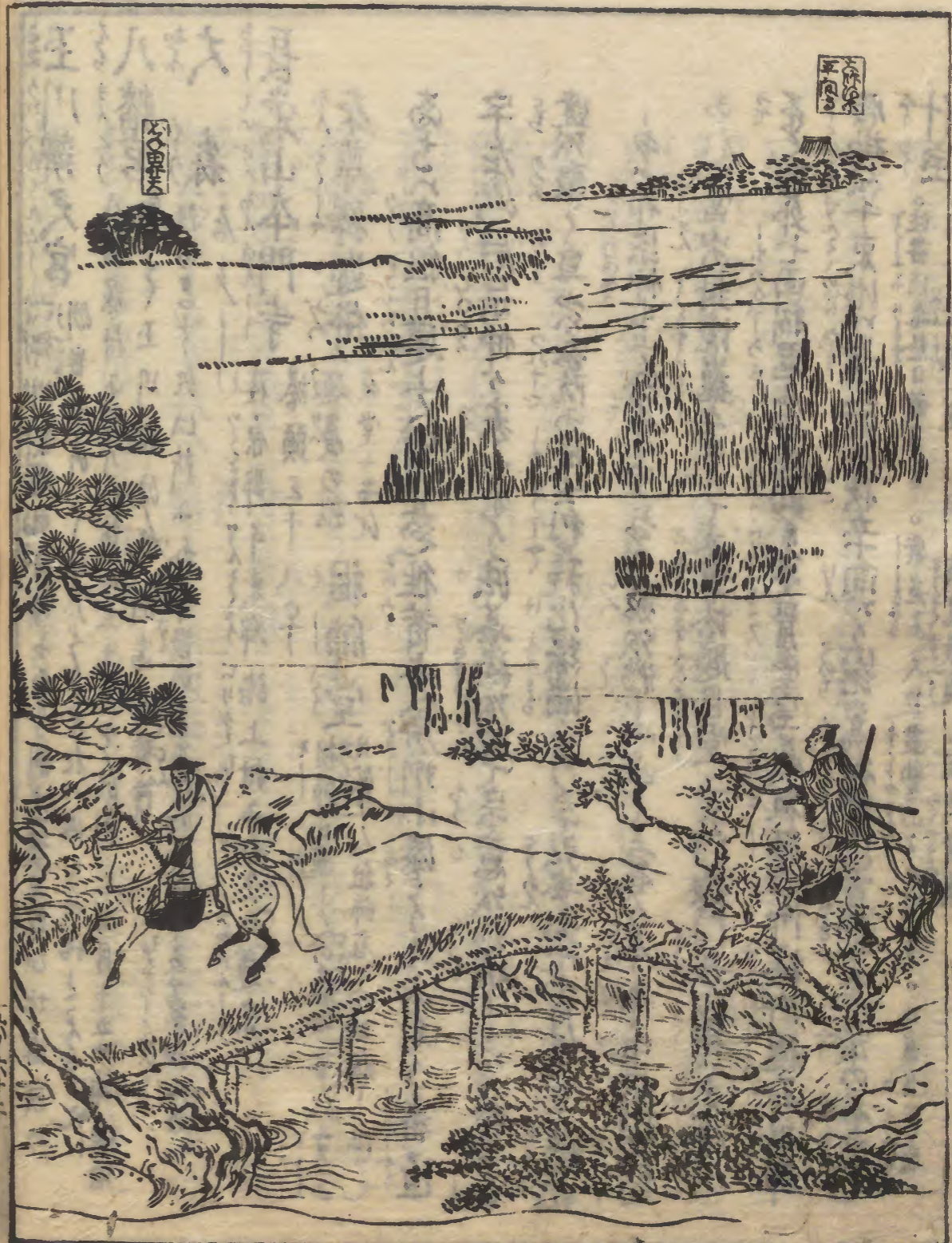
一ゆ希宗仲上人の身よりあふ家流に寺とあり今寺中は内大坊

あり當山の封境魏々として五重塔題目堂二王門惣門若く願光悦の

系其外七面祖鬼子母神妙見骨堂宝蔵祖師の御塔所觀石祖師

腰掛松千束池の長三町お核辛向りの地の高祖遷化の古跡と一宗の名利之

什宝。注書法華終日蓮自奉。紫石入世一盤山よりつる。日蓮自奉



海草の味は
 大衆より好む
 其の味は秋
 の枯葉より好む
 ひんやりとした味
 西の者が好む
 十町に町わら
 半里に少くとも
 十町に町わら
 半里に少くとも
 十町に町わら
 半里に少くとも
 十町に町わら
 半里に少くとも

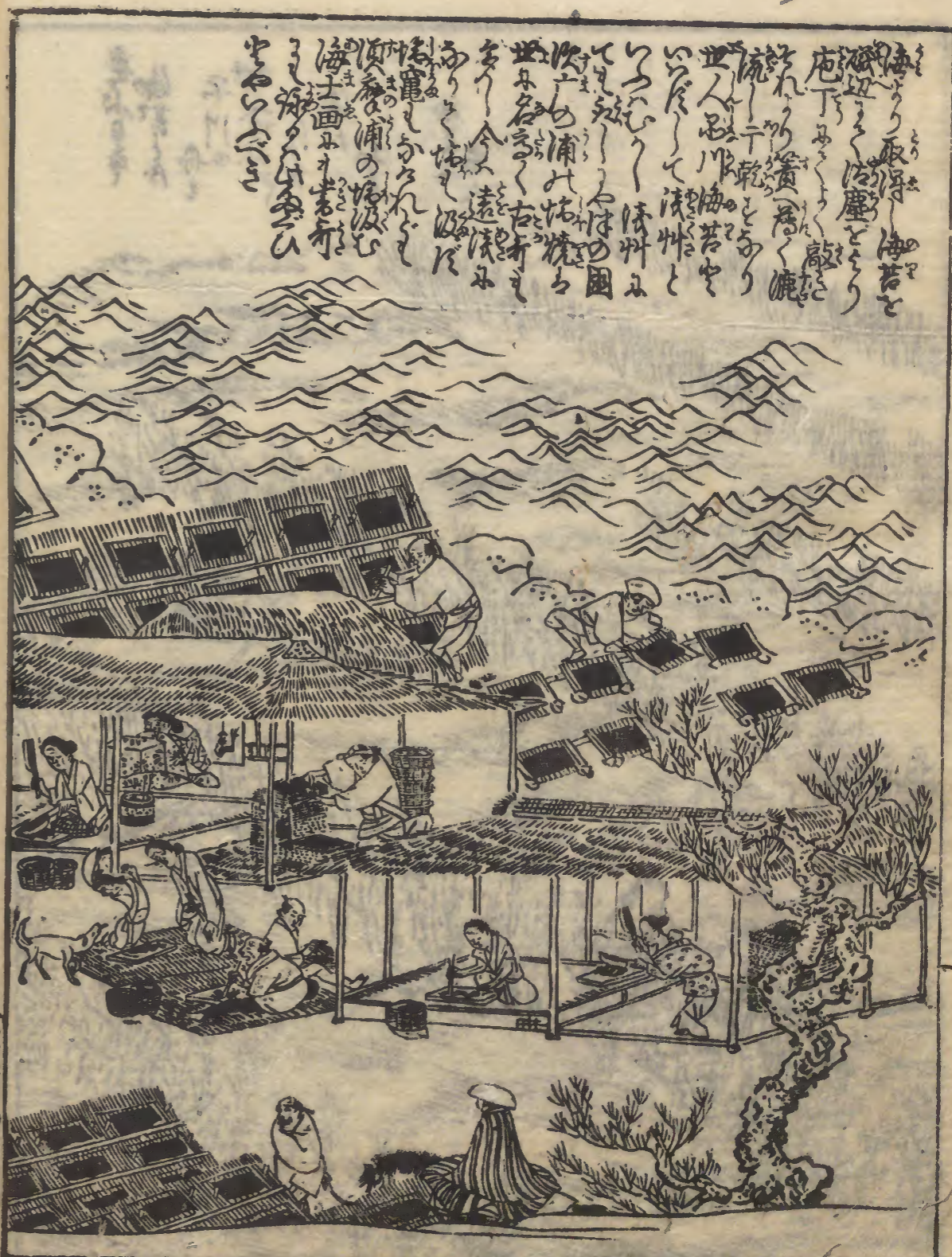
政美馬



海草の味
 大衆より好む
 其の味は秋
 の枯葉より好む
 ひんやりとした味
 西の者が好む
 十町に町わら
 半里に少くとも
 十町に町わら
 半里に少くとも
 十町に町わら
 半里に少くとも



海苔の味 其角
 何小
 中々海
 りあや



荒蘭寄

川傍くわたりふ川まての旧名々々一
笠橋も後が表のやせり成り

万葉

紀行

名産

名産荒蘭海苔

大森五ノ川沖の沖あきるくつふられ成後州海苔

は海苔と取秋の彼岸より始りて其の彼岸小終る霜月臘月や寒氣

漂冽ある時取と最上といふ本といふの張多く拵げて小艇小積沖の方十町

許りのひの井町又一里餘も出て狼牙棒少く海産小穴を掘ての採

取扱あみ玉ふれ成にといふ満潮小海苔ふれ小纏ふ干汐の附分少

液と所々歩行せも出ゆとふら船少く通其海苔張籠ふ入持帰

藻色あて流流一塵をて撰て板の上を庖丁張りの山細密小敲く

持れく蔭の簀紙と漉すふ流流一建ふ干乾一豊重にて淡州

町の海苔回屋より賣之その人荒蘭海苔といふ處と淡州海苔と

つらと海苔も海藻の類ふのうふあやうん

鈴杜八幡宮

例祭八月十五日社内小鈴杜といふ所り撃ハ鈴の音少

仲室くわ未社五本稲苅大園主命 横田考命 舟助又 一色重神

又豊後神小一茶 大園主命 鹿島 粟佐 舟又 菊理考命 書屋

王右軍筆等張あふ

社司森田氏字

儀馴松 社あやう

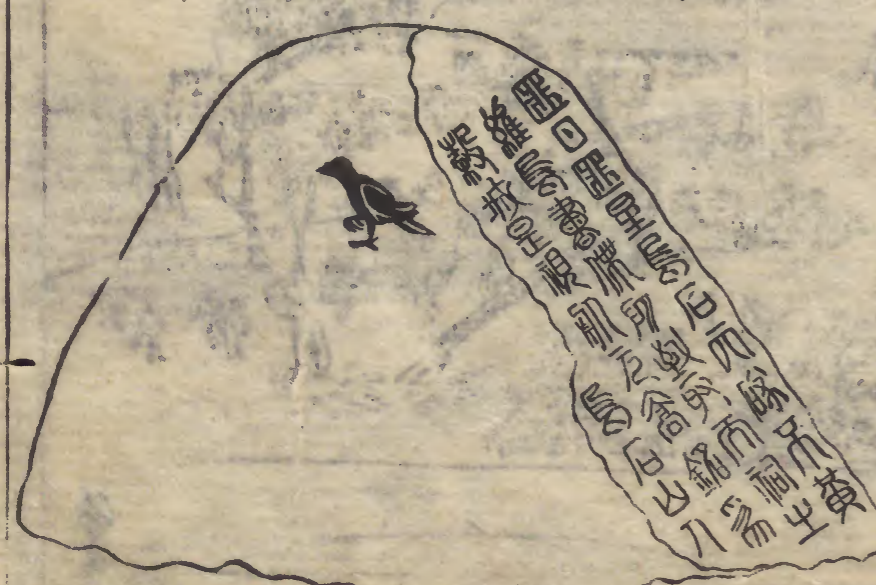
鳥石 本社の後小つり大廿二天鏡

石面小鳥の模形つり五寸許

石色まじく鳥形黒漆のあやう

石の左肩小碑つり南郭子銘

書ハ古篆ふく鳥石葛二辰鏡を



徳降養海鏡森凡

結秋明珠笠島雨

明和元年八月 藤定福

右ハ橋小路三位参議定福殿



兩院一品之尊神
典仁親王

吹さらば
中くそま
たよふふ
よふふ
あふふ

拾
世中
は
を
心
東威

日ノ升



御殿山
天王社

西美馬



蕪村
うら
のうら
のうら
のうら

政美屋



高島と茶店

三木

高島

品川

品川 武蔵野の東部、品川川、江戸名所、大森、品川、勝志、等、江戸名所記の要文、品川

品川の驛、東都の喉口、常小販、旅舎、斬端、酒旗

因肆海莊、客旅止、宿旅迎、糸井の者、今様、艶、浦

海家おほく、肴つ、仲ふ、唱、海士の、尊を、はれ

風系、足、ぐ、東海、五十三、の、館、驛、の、首、たる、所、ある、ぐ

水月観音

品川、海照山、品川、普門院、開基、弘法、大師、羊、久

奉考、正観音、感得、大師、巡行、の、時、龍宮

海晏寺、同所、あり、秋、の、末、紅錦、秋、の、末、紅錦、秋、の、末、紅錦

東海寺

同所、あり、開基、澤庵、和尚、馬、出、石、の、人、あり

御殿山

東海、山、小、川、名、の、上、方、に、あり、丘、山、小、川、名、の、上、方、に、あり

一、弥生、の、花、盛、也、も、是、も、小、乗、一、貴、と、も、く、然、と、も、く、小、育、女、一、

糸師、の、岨、塚、御、室、少、も、異、る、ぐ、び、さ、あ、ら、う、と、も、く、花、の

香、西、方、小、舟、り、て、酒、を、さ、め、あ、旅、詩、を、賦、せ、も、多、あり、特、小、風、系、の、地

小、て、東、南、の、方、の、海、面、を、は、つ、小、舟、り、て、舟、の、け、取、皮、を、り、と、も、く、

ほ、る、あ、れ、を、田、面、の、房、の、つ、る、小、舟、り、て、舟、の、け、取、皮、を、り、と、も、く、

さ、く、復、ろ、ふ、も、ぐ、螢、火、を、採、れ、り、あ、ら、う、と、も、く、秋、は、星、の、つ、る、と、も、く、

危、を、げ、と、も、く、さ、り、く、と、も、く、彼、を、と、も、く、さ、り、く、と、も、く、

潮、ふ、ち、る、月、の、つ、げ、と、も、く、曇、ら、ぬ、後、と、も、く、洗、つ、て、海、を、り、て、海、を、入

大、納、言、通、方、の、泳、に、あ、ひ、と、も、く、一、の、月、の、入、り、山、を、り、と、も、く、

未、ふ、く、れ、志、と、も、く、ま、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、後、名、羽、院、下、野、の、あ、ひ、を、り、と、も、く、

ま、と、く、ら、ぬ、あ、ら、う、と、も、く、名、の、い、く、日、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、

て、海、陸、の、旅、の、ぼ、る、人、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、

も、多、かり、花、成、け、所、の、風、系、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、

も、多、かり、花、成、け、所、の、風、系、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、あ、ひ、を、り、と、も、く、

三田八幡宮



乳小島

寺の足
志の足

放生舎

松の坊
松の堂



美政齋

芝海
漁舟



北尾慈齊畫

六ノ七十

不慕功名萬戶侯，
一絲牽動海天秋。
長竿子彎釣，
短簑衣小舟。
搖動兩三聲，
驚回四五個沙鷗。
得魚沽酒江邊飲，
醉卧蘆花雪枕頭。

李白



八山 高嶽のふりりむりり大日堂あり

芝大佛 高嶽の上より五智大佛の本像に由り寛永十二年但馬湯泉山の業

師小竹とて備へて年十五又小竹にて信濃國檀香山に百日又其の形度大なりて虚空界に備へて又

信濃國檀香山に百日又其の形度大なりて虚空界に備へて又

件法の実像に入らざる初門と表し外境に在りて心は志す

泉岳寺 高嶽の北にあり曹洞宗 開基の白菴宗匠和尚

本尊釋迦佛 高嶽の中古の石塔あり正保年中此塔を移す

三田八幡宮 田町より東にあり石塔あり正保年中此塔を移す

十五日隔年小祭 祀と勤む小祭とては非ざる

真籃観音 本尊観音を流し小舟に載せしめ

西應寺 開基明賢上人應安元年建立

本尊の弥陀佛 龍象學道の麟を以て

道灌城蹟 西の窪に石を築きて

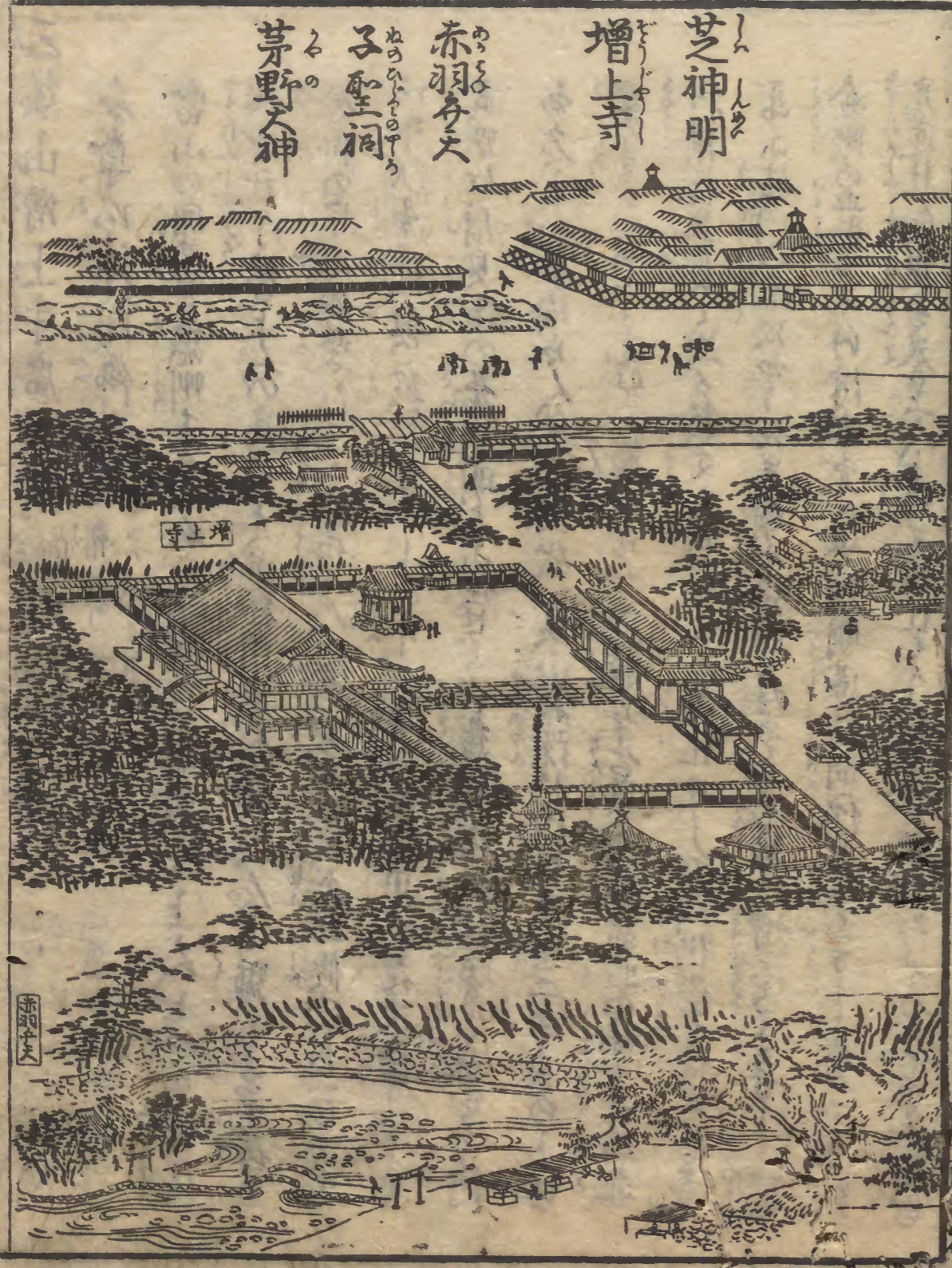
熊谷城山 熊谷直實が城跡とす

雜魚場 芝の海傍の漁師町に日々漁し

含海山 芝の海傍の漁師町に日々漁し

長南寄 原助橋の下流

芝神明
増上寺
赤羽文
子聖祠
茅野之神



三縁山増上寺廣度院東播磨

本尊の弥勒佛長心僧都の住

當山の開基は總州千葉女の末裔として源空上人七世の嫡流
西蓮社了譽上人の高才大蓮社西譽聖聰上人と號して淨土
念佛の宗風を興へて之心昂一乃窓のあみち念四修の月夜をて
つやび奉理俱於此之の中は美報受用の花衣縁トク
武州に府貝塚の靈光明ち住せしる舊地は今紙後等と稱する所
ありて一其頃々人皇一百一代後小松院に御宇至徳二年との
丑の夏光明寺おたけ論義のり讚題を若導大師の四帖の疏も長時起
行果極菩提との釈文之西譽上人徳化して所化の輩向者落者
少小法門の扉かち死光明ちなつたらく三縁山増上寺と号し一心
金剛の血脈をうけけはぎ才二世光明蓮社問作上人と号し才三
定蓮社聖觀を譽上人と號して彌を地れり年兼ありて才十二代の

寺職徳化弘貞蓮社源譽上人と号され増上寺東真之官家師擅乃

台令のりて御戒師と成血脈相傳のり一上人遷化の慶長十九

少一益深普光觀智圓師と賜ふは時小ありて易の法門の行運

たちま地ふを時接すの相應して一天四海宗凡ふ歸さる才一の

心みふえとりの徳化の一代の法藏と胸ふたえ所化の十二代教文眼

ふこし學道知さる智徳みごと法利生はるつと法々れが寺の

院辨弘慶夜院ともかしくと寺志不御靈舎のりとの後の山岡の

所化寮連綿して山門巍々として釋迦文殊普賢十六羅漢の徳

安ん安國殿黒本を岡山堂鎮守の徳母之所級舎天神を子堂経藏

金鼓をの念佛堂極樂橋鷹門蓮池の本堂のり海柳の井を

其小の方ありる名譽曼陀羅石赤座の松系山産子と稱するの規智

院あり火消地蔵の花岳院ふ安ん一寺席れ五十傍核本同席二十八傍核側席

六士傍都て大衆三終とい實靈就山の會上美金糸布た給孤園ふも比せんや

画原史屋
 茶屋王殿
 牛揚子
 龍包
 江戸
 新吉原
 土產の賞
 賞一とん



丹波の
 生かぬあり
 繪を
 とんばへ
 賞一とん



政美馬

飯倉神明宮

田名取地本といふ今芝神明と云ふ別高金剛院

祭神天照大神

社傳云一條院淳平寛弘二年九月十六日

人々ちやこひの所ふりけりとも云ふまじりてあり女子
常陸國鹿嶋の地小彦原一萬軍を後ひ返け帰みぬ
りつらぬ早く天照大神を命じてありて神勅ありて
磐城をめぐり神聖に裁たさふにありて其後建久に
洋右大將頼朝を奈須を小彦原の時高所宇多川小到く
佩ちる劍みづゝのけくありてむけ神明宮のうり
ろのりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
小彦原と云ふ地にありて道小社殿奉納し奉納し奉納し
の地小田原小彦原八州を掌す一威に南方小彦原に明應
神領も廢し荒蕪小彦原及天正中に小彦原の家名ありて
町観小彦原に再宮なりけり神樂の儀は先づ神樂の
花平天下の御祈禱

愛宕権現

芝小あり別高國福教院真言宗

將軍地藏尊

行基大士の仏社頭小彦原坊圓大師堂并文
未社六前二王門待堂地土箱高社延今地藏

男坂といふ又右と女坂といふ
梓愛宕山と云ふ系師朝日峯白雲寺小准下て神幹ハ伊弉册尊
迦具突智命がまると火伏の神と稱せん地と將軍地藏尊

修羅園静の眩恵に伏し一を平安靈計守護加忍辱慈悲の尊
弘のりけり利益をまほしく元生小蒙りけりゆめをめぐり東園江

府の地小名頼家のりけり神勅信りけり其威徳りけりまぐりて四海
静濫のをほりて靈験日々おきたるに後人向断りて殊に地凡

糸の指場多ればあふれ芝小川の海面遠く房總北出鮮おりて妻の
水秋の月小茶店の湯々小山吹喜撰か薫らせりけり豆茶ま茶

香奕茶煮茶婢中をも系師の孤園吉羽の風流をりまをる

築地御堂 築地あり系師西六条本願寺論番所

本尊阿彌陀佛 脇檀小崩山親愛聖人前住上人親と云ふ

初は後系師の由よりけり明暦年中回祿の災已後あつた後干渉の

海たりけり築地一寺地と云ふ近年御堂再興りて社殿より道場

初は後系師の由よりけり明暦年中回祿の災已後あつた後干渉の
海たりけり築地一寺地と云ふ近年御堂再興りて社殿より道場



愛宕社
 築地御堂
 佃田修任君
 杉橋
 系橋

岩突

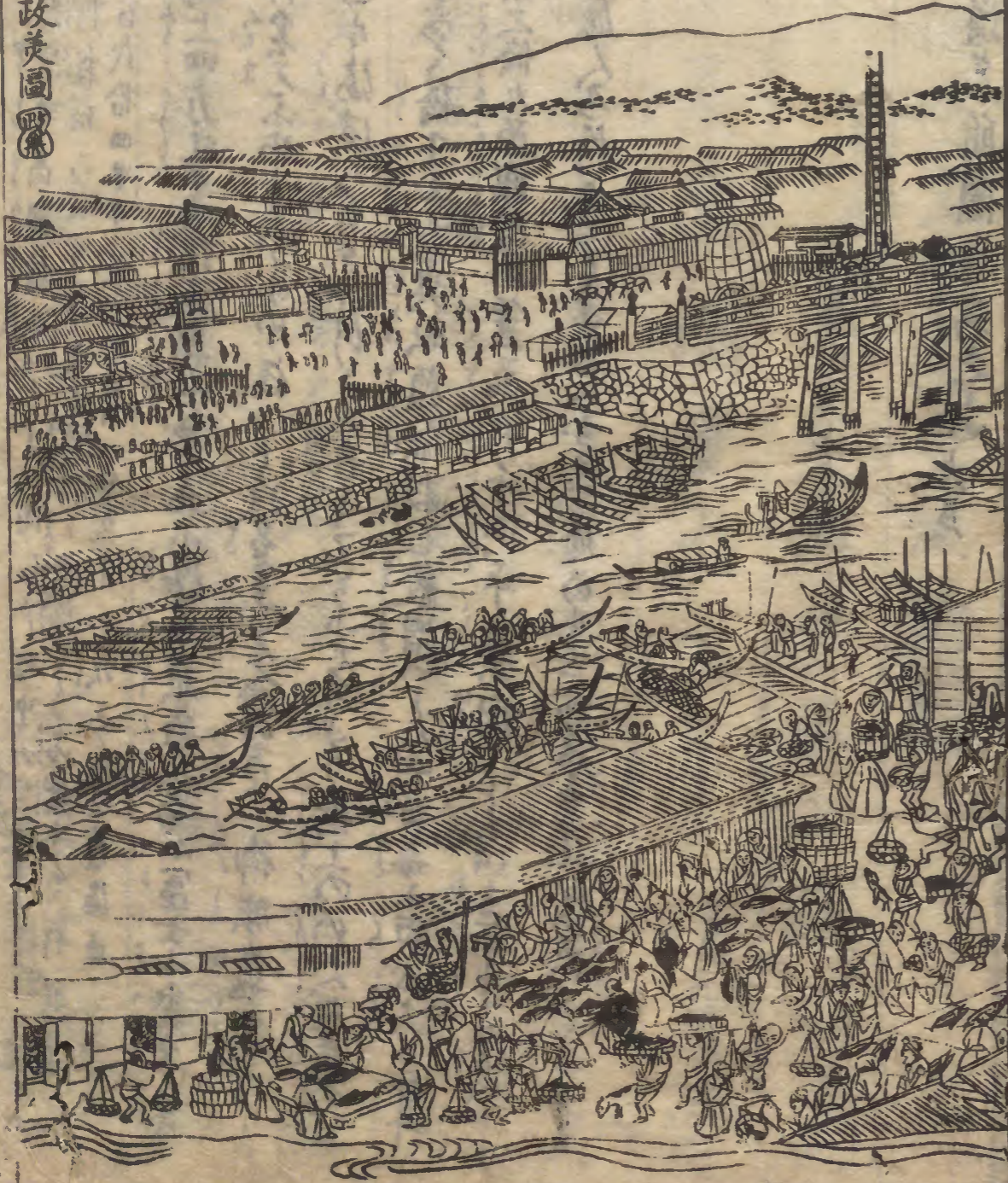
運茶山

西中九

政美馬

東都
葛野
政美圖

日 本 橋



富士山



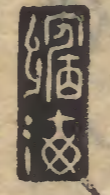
東日本橋

慈寶珠高欄橋長廿二十八間江戶町中の中矢野町に在り
行程概二里半 拾五町 驛宿五十二次 此れと東海道と

け橋上四方眺み風景真妙なり北小沙茅東殿山富士山我々々々
峯の表に小舟一入りの海に舟名をてん西の方 御城巍然と
東海に海はらちくけり舟もさうふらり橋上の行人征馬の
男もく橋下舟も真帆植帆杖百艘漕つとて日毎小市に立る
真小三條九陌城隈小麓萬戸千の平且小角くとけきの半々
玉葉 旅人乃乃りこくこふこふ道あまこふまきこふまき 聖の末 右大尾

東海道名所圖會卷之六 大尾

東海道名所圖會跋

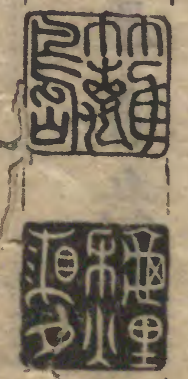


子羊之皮不如一狐之腋示君
一馬圖 孫重十手 見是謂國果
勝于見乎 不心 意見成國 世見
能國 固見 及國 無見 非圖 奈今
人為 又者 多焉 國者 少 肅 得圖
而 器 共 襟 懷 娛 志 國 不 謂 不
勝 于 見 乎 是 予 之 所 立 之 意 也

候曉解靴繫於系沙法理湖素
海卷之杜以橋遠之濱名橋
龍大堰云依云穗清見美京某
落靈嶽笥山天關竄滑越江極
心府心遂過館驛五十有餘部
到東都國儲所紀畧盡矣此
也縱探禹穴登龍門何憚乎雖
然鄙癖足供為他人者呆平壯

言名論聽者遂飽謂又果務亦
圖乎謂國果勝於見乎心亦龍
圖難獲捷徑矣略贅數語伸
意鼓腹
皇和清平之辰而已矣
寬政九年癸卯己未九月

平安 秋里籬寄 湘夕



寛政七歳

浪花

榑原喜兵衛

寛政九丁巳載十一月

田中庄兵衛

出雲寺文次郎

小川多左衛門

殿 爲 八

今井喜兵衛

武村甚兵衛

榑谷市兵衛

須原茂兵衛

前川六左衛門

小林新兵衛

書林

京師

東都

